CRÉDIT AGRICOLE S.A.

PRESS RELEASE

2020 年度第 2 四半期及び上半期の業績結果 **2020 年 8 月 6 日 モンルージュ**

クレディ・アグリコル・グループ、V 字回復

クレディ・アグリコル・グループ*

基礎収益 [1]	基礎 GOI[1]	基礎純利益 [1]	CET1 レシオ
当四半期:	**当四半期:**	**当四半期:**	**16.1%**
85 億 3,600 万ユーロ	**33 億 9,800 万ユーロ**	**17 億 8,500 万ユーロ**	6 月/3 月で+0.6 ポイント、SREP[2] を 7.2 ポイント超過
前年同期比横這い	前年同期比+5.4%	前年同期比-3.3%	
当上半期:	**当上半期:**	**当上半期:**	
169 億 1,400 万ユーロ	**58 億 4,300 万ユーロ**	**27 億 6,700 万ユーロ**	
前年同期比+0.3%	**前年同期比横這い**	**前年同期比-15.7%**	

- **当四半期の表示純利益グループ帰属分は 14 億 8,300 万ユーロ**(前年同期比-18.2%)、**当上半期:23 億 9,100 万ユーロ**(前年同期比-24.4%)。当四半期の表示収益は 80 億 9,600 万ユーロ(前年同期比-4.6%)、当上半期:164 億 6,200 万ユーロ(前年同期比-1.3%)。
- **顧客重視型ユニバーサル・バンキング・モデルの貢献により、グループの事業活動が力強く回復:** 2020 年度上半期に 68 万 5,000 人のリテール・バンキング新規顧客を獲得、ネット・プロモーター・スコアが上昇(地域銀行及び LCL で 2019 年対比+7 ポイント)、国家保証融資を除く貸付残高が増加(前年 6 月比+5.9%)、当グループのプロジェクトの 3 本柱の、特にグリーンファイナンスの前倒導入。
- **欧州で最高クラスの貸倒引当金水準。安定的な NPL レシオ(2.4%)、不良債権引当率の上昇(84.5%、2020 年 3 月時点から+0.2 ポイント)**、貸倒引当金残高 201 億ユーロ、引当増(対 2019 年度第 2 四半期倍増の 12 億 800 万ユーロ)(増加の 70%は当第 2 四半期の正常債権引当 4 億 2,400 万ユーロによる)。当上半期の年換算リスク関連費用の残高に対する比率は 45 ベーシス・ポイント。
- **非常に強固なソルベンシー水準、CET1 レシオ 16.1%、2022 年の MTP 目標をすでに達成**(SREP を上回るバッファー:7.2 ポイント)
- **地域銀行の好調な業績:** 当四半期の基礎純利益 6 億 6,300 万ユーロ(前年同期比+17.9%)。基礎収益の増加:前年同期比+1.2%、SRF を除いたコストの減少:前年同期比-8.9%、安定的な NPL レシオ(1.8%)、高水準の不良債権引当率(99.7%)、引当増(前年同期比+24.9%)

* クレディ・アグリコル S.A.及び地域銀行の 100%

クレディ・アグリコル S.A.

基礎収益 [1]	基礎 GOI[1]	基礎純利益 [1]	CET1 レシオ
当四半期:	**当四半期:**	**当四半期:**	**12.0%**
51 億 8,500 万ユーロ	**21 億 3,000 万ユーロ**	**11 億 700 万ユーロ**	6 月/3 月で+0.6 ポイント、SREP[3] を 4.1 ポイント超過
前年同期比+0.1%	前年同期比-0.5%	前年同期比-10.9%	
当上半期:	**当上半期:**	**当上半期:**	
103 億 2,200 万ユーロ	**37 億 1,300 万ユーロ**	**17 億 5,800 万ユーロ**	
前年同期比+2.4%	**前年同期比+2.9%**	**前年同期比-13.7%**	

- **当四半期の表示実績:** 9 億 5,400 万ユーロ(前年同期比-21.9%)、表示収益:48 億 9,700 万ユーロ(前年同期比-4.9%)。表示 GOI:18 億 3,800 万ユーロ(前年同期比-12.9%)
- **上半期の GOI は増加:** 当四半期 21 億ユーロ(前年同期比-0.5%)、当上半期 37 億ユーロ(前年同期比+2.9%)。第 2 四半期に安定的な収益(+0.1%)及び費用の減少(-1.9%)によりコスト比率が 1.2 ポイント改善。
- **引当の増加(前年同期比 2.5 倍の 9 億 800 万ユーロ)。**うち、正常債権に対する引当 2 億 3,600 万ユーロ(増加額の 48%)。当上半期の年換算リスク関連費用の残高に対する比率は 74 ベーシス・ポイント、安定的な NPL レシオ(3.2%)、不良債権引当率の上昇(73.4%で 2020 年 3 月比 0.9 ポイント上昇)、貸倒引当金:101 億ユーロ。
- **CET1 レシオは 12.0%に大幅上昇(+0.6 ポイント)**。ECB の規制調整措置(緊急規制緩和により+41 ベーシス・ポイント)及び当四半期の市場好転による有価証券ポートフォリオの未実現損益に対する影響(+19 ベーシスポイント)を含む。当第 2 四半期配当 1 株当たり 0.15 ユーロの引当。**SREP 要件を超過するバッファー:6 月 30 日現在 4.1 ポイント、3 月比+0.6 ポイント**
- 1 株当たり基礎的利益:当四半期:0.36 ユーロ(前年同期比-10.1%)、当上半期:0.53 ユーロ(前年同期比-15.5%)。
- **当上半期の年換算基礎的 RoTE は 8.5%**
- **流動性指標が上昇(2020 年 6 月 30 日現在の準備金は 4,050 億ユーロで 2020 年 3 月末比 670 億ユーロ増加)**
- **Switch メカニズムの発動。**当上半期中の市場の緊張によるものであり、表示リスク関連費用への影響は 6,500 万ユーロ。

本プレスリリースでは、クレディ・アグリコル S.A.及びクレディ・アグリコル S.A.の子会社とクレディ・アグリコル地域銀行(クレディ・アグリコル S.A.の 55.9%を所有しています)で構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントします。特殊要因の詳細(これは、基礎的利益を計算するためにさまざまな指標で修正再表示されます)については、本プレスリリースの 32 ページ以降を参照ください。表示損益計算書と基礎的損益計算書との調整は、クレディ・アグリコル・グループについては 4 ページ、クレディ・アグリコル S.A.については 9 ページに記載されています。

---

[1] *特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、32 ページ以降を参照のこと。*

[2] *SREP 要件 8.9%が基準*

[3] *SREP 要件 7.9%が基準*

クレディ・アグリコル・グループ

フランス最大の銀行として、当グループは経済の支援への取組みに尽力

今回の危機は当グループを顧客にとって一層身近なものとしました。当グループは**顧客との接触を保つ**ために、内容を充実させた支援措置を導入しました。ロックダウン期間中、当グループのリテール・バンキング・ネットワーク全体の 90%の支店及びアドバイザーが対面でまたはリモートで連絡を取ることを可能としました。CA イタリアでは、リモートでの対話が大幅に増加し、30%超の顧客はオンライン・バンキングを活用しています。地域銀行については、デジタル顧客の増加率は 0.8 ポイント加速しました。

この困難な期間全体を通じての当グループの取組みは、**最も大きな被害を受けた顧客に対する支援**にも反映されています。 当グループは当初から政府の戦略に歩調を合わせ、各顧客カテゴリーについて的を絞った施策を用いて、それにより継続的に顧客のニーズに応えています。3 月 6 日、クレディ・アグリコル・グループは、COVID-19 の影響を受けた法人、SME 及びスモールビジネス顧客について、融資返済の **6 カ月間の猶予**を認めました。2020 年 7 月 17 日現在、フランスのリテール・バンキングで合計 55 万 2,000 件の返済猶予が認められ、総額 42 億ユーロについて満期が延長されました（うち 83%が SME、スモールビジネス及び法人向けで、71%が地域銀行、29%が LCL で行われました）。3 月 25 日にフランス政府もまた、コロナウイルス危機の影響を受けている企業のキャッシュフロー・ニーズを満たすために、**国家保証融資**（*Prêts Garantis par l'Etat*）の導入を発表しました。当グループは、地域での強力な存在感及び広汎性により、零細企業から大企業まですべてのビジネスを支援し、現在までに国家保証融資申込の 23.7%を受けています。2020 年 7 月 24 日現在、当グループは全体で 17 万 9,500 件、総額 287 億ユーロの融資申込を受けています（このうち、62%が地域銀行、30%が LCL、8%がクレディ・アグリコル CIB）。当グループは、**事業中断保険契約を締結している SME 顧客及びスモールビジネス顧客に対して、個別の支援**を提供し、この相互的支援は総額 2 億 3,900 万ユーロに上ります。また、CA イタリアの顧客には、20 億ユーロの**返済猶予及び国家保証融資**が提供されています。

脆弱な立場に置かれた顧客の数が著しく増加しているため、**最も苦しい状況に置かれた顧客にとって利用可能であり、かつそうした顧客を受け入れること**は、当グループにとってのこの数カ月の主な優先事項となっています。当グループは、地域銀行及び LCL において SME 及びスモールビジネス顧客にペナルティの免除及び当座借越枠を提供することで対応しています。

現在の状況下では、**当グループのプロジェクトはその妥当性をこれまで以上に証明しています。顧客プロジェクト**に関しては、顧客との関係の強化は顧客からのフィードバックに反映されており、当グループの NPS[4]（ネット・プロモーター・スコア）は 2020 年にネットワーク全体にわたって上昇しています。地域銀行は+8 ポイント（2019 年対比+7 ポイント）、LCL は+2 ポイント（2019 年対比+7 ポイント）となり、CA イタリアでは顧客満足度が向上しています。当グループはまた、グループの販売及び顧客関係モデルにおいてデジタル化の強化を継続しています。当四半期中におけるこの事例としては、6 週間で導入された非接触での支払限度額の 30 ユーロから 50 ユーロへの引き上げ、リテール・バンキングにおける SME 及びスモールビジネス向け国家保証融資申請の電子署名、ペーパーレスでの損害保険金請求並びに CAL&F における返済猶予申請の自動処理が挙げられます。**人的プロジェクト**は、第一に、顧客との接触の有無にかかわらず、全従業員による顧客支援への全面的な関与によって一層強化されました。支店内に特別チームが設置され、当グループの地域に対する責任感を実証しました。今回の危機において、顧客は ESG 投資に対する旺盛な需要を示し、このことにより当グループは**社会プロジェクト**を通じた地域社会への関与を強化する決意を新たにしました。6 月末に、当グループは、当グループの社会目標の遂行及び管理における困難な課題に対応するために、グループレベルでの非財務報告プラットフォームを導入しました。クレディ・アグリコル S.A.内の部門のアプローチは、当グループの地域社会への関与と歩調を合わせ、その結果として、アムンディによる初の不平等緩和に焦点を当てたグローバル株式ファンドの発売、及び LCL による地球温暖化への取組みで初めてとなるフルレンジの投資商品の発売に至りました。また、クレディ・アグリコル CIB は、ソーシャルボンド及びグリーンボンドにおいて世界で第 1 位にランクされています。当グループは、雇用における多様性及び若年層雇用に重点を置き、これらの分野で目標を達成することを固く決意しています。特に、当グループは 2020 年に 4,000 人の就学従業員を雇用することを約束しており、これにより当グループは Figaro/Cadremploi ランキングで第 2 位となります。また、

[4] *2020 年の個人についてのナショナル・ネット・プロモーター・スコア：推奨者の割合と批判者の割合の差異*

SBF120 企業における女性の意思決定参画度ランキングで良好な進展を示しており、2020 年には順位を 46 上げて 50 位以内に入りました。これは全て、**グループ・プロジェクトの 3 本柱の前倒し導入**を立証しています。

当グループの当四半期における営業活動は良好でしたが、四半期末には特に活発化しました。AuM は 2019 年度第 2 四半期に比べ増加し(+7.1%)、生命保険の AuM もユニット・リンク型資産の割合の上昇(2020 年 6 月は 2019 年 6 月から 0.5 ポイント増の 22.7%)に伴い増加(+1.6%)しました。フランス及びイタリアのリテール・バンキング・ネットワークにおいては、残高が引き続き力強く増加しました。ローン残高は 7,269 億ユーロ(フランス 6,818 億ユーロ、イタリア 442 億ユーロで国家保証融資を除くと 7,084 億ユーロ)となり、前年同時期から 8.7%増加(フランス 9%増加、イタリア 4.9%増加)し、国家保証融資を除いては 5.9%の増加となりました。オン・バランスシート預金は前年同時期から 11%増加して 6,718 億ユーロとなった一方、オフ・バランスシート預金はほぼ同水準でした(3,828 億ユーロで+0.1%)。顧客獲得総数は特に好調(2020 年に 68 万 5,000 人増で、うちフランス 63 万人増、イタリア 5 万 5,000 人増)で、6 月には急加速がありました(15 万人増、前年同月比+2.4%)。こうした状況を背景に、顧客基盤は引き続き大幅に拡大しました(2020 年に 38,000 人増で、うちフランス 36,500 人増、イタリア 1,500 人増、前年同時期比+4.4%)。連結ベースの消費者金融ローンはほぼ横這い(+0.2%)となりましたが、6 月には販売の勢いを盛り返しました(2020 年 4 月と 6 月の間で+170%)。最後に、大口顧客部門は資本市場(収益は前年同期比+44%)をはじめとして非常に活発で、傘下の全部門で力強い寄与を達成しました。ファイナンス事業も、顧客向けに幅広いファイナンス・ソリューションを動員する能力により、良好な収益成長(+6%)を記録しました。

当グループの業績

2020 年度第 2 四半期に、クレディ・アグリコル・グループの**表示純利益グループ帰属分**は、2019 年度第 2 四半期の 18 億 1,300 万ユーロに対して **14 億 8,300 万ユーロ**となりました。当四半期に計上された**特殊要因**は、**純利益グループ帰属分に対して 3 億 200 万ユーロのマイナス影響**をもたらしました。

当四半期における**特殊要因**(純利益グループ帰属分に対して 3 億 200 万ユーロのマイナス影響)には、事業中断保険契約を締結している SME 顧客及びスモールビジネス顧客に対する協調支援の影響が地域銀行の収益に対してマイナス 9,400 万ユーロ、LCL の収益に対してマイナス 200 万ユーロ、保険収入に対してマイナス 1 億 4,300 万ユーロ(純利益グループ帰属分に対する影響、それぞれ、マイナス 6,400 万ユーロ、マイナス 100 万ユーロ及びマイナス 9,700 万ユーロ)含まれていることに加えて、2020 年 6 月の月初にクレディ・アグリコル S.A.が実行した負債管理取引に係る現金調整の影響(収益影響マイナス 4,100 万ユーロ及び純利益グループ帰属分影響マイナス 2,800 万ユーロ)が含まれています。これに加えて、変動の大きい経常的な会計項目が収益に対してマイナス 1 億 6,000 万ユーロ、純利益グループ帰属分に対してマイナス 1 億 900 万ユーロの影響を与えました。具体的には、DVA(債務評価調整、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益)及びヘッジされていない発行体スプレッドの変動に伴う資金調達評価調整(FVA)部分の合計額マイナス 500 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 5,100 万ユーロ並びに住宅購入貯蓄プラン引当金の変動マイナス 5,300 万ユーロの影響がありました。特殊要因にはまた、最近 CACEIS が取得した企業(KAS バンク及び S3)の統合費用の影響が営業費用でマイナス 500 万ユーロ及び純利益グループ帰属分にマイナス 200 万ユーロ含まれています。2020 年度第 2 四半期における Switch 保証メカニズムの発動は、リスク関連費用で 2 つの反対方向の影響をもたらし、アセット・ギャザリング部門に 6,500 万ユーロのプラス影響、地域銀行にマイナス 6,500 万ユーロの影響をもたらしました。2019 年度第 2 四半期には、特殊要因は、**純利益グループ帰属分に 3,300 万ユーロのマイナス影響**を及ぼしました。特殊要因に含まれるのは、債務評価調整(DVA、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益)マイナス 300 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 600 万ユーロ及び住宅購入貯蓄プラン引当金マイナス 2,400 万ユーロなどの、変動の大きい経常的な会計項目のみでした。

これらの特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分**[5]は、前年同期比 3.3%減の **17 億 8,500 万ユーロ**でした。この利益の減少は主に、COVID-19 危機が特にローン残高に対する引当に及ぼした影響によるものでした。

クレディ・アグリコル・グループ ― 表示実績と基礎的実績（2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期）

€m	Q2-20 stated	Specific items	Q2-20 underlying	Q2-19 stated	Specific items	Q2-19 underlying	Q2/Q2 stated	Q2/Q2 underlying
Revenues	**8,096**	**(441)**	**8,536**	**8,485**	**(49)**	**8,534**	**(4.6%)**	**+0.0%**
Operating expenses excl.SRF	(5,036)	(5)	(5,031)	(5,308)	-	(5,308)	(5.1%)	(5.2%)
SRF	(107)	-	(107)	(4)	-	(4)	x 27.5	x 27.5
Gross operating income	**2,953**	**(445)**	**3,398**	**3,174**	**(49)**	**3,223**	**(7.0%)**	**+5.4%**
Cost of risk	(1,208)	-	(1,208)	(598)	-	(598)	x 2	x 2
Equity-accounted entities	78	-	78	94	-	94	(17.0%)	(17.0%)
Net income on other assets	78	-	78	(8)	-	(8)	n.m.	n.m.
Change in value of goodwill	(3)	-	(3)	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**1,898**	**(445)**	**2,343**	**2,662**	**(49)**	**2,711**	**(28.7%)**	**(13.6%)**
Tax	(308)	142	(450)	(728)	16	(743)	(57.7%)	(39.5%)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(0)	-	(0)	8	-	8	n.m.	n.m.
Net income	**1,590**	**(303)**	**1,893**	**1,942**	**(33)**	**1,976**	**(18.1%)**	**(4.2%)**
Non controlling interests	(107)	1	(108)	(130)	-	(130)	(17.4%)	(16.6%)
Net income Group Share	**1,483**	**(302)**	**1,785**	**1,813**	**(33)**	**1,846**	**(18.2%)**	**(3.3%)**
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	**62.2%**		**58.9%**	**62.6%**		**62.2%**	**-0.3 pp**	**-3.3 pp**
Net income Group Share excl. SRF	**1,580**	**(302)**	**1,882**	**1,815**	**(33)**	**1,848**	**(13.0%)**	**+1.8%**

2020 年度第 2 四半期の**基礎収益**は、前年同期と同水準の 85 億 3,600 万ユーロでした。コーポレート・センターを除く中核事業については、2.2%の増収でした。当四半期の収益水準は、現在の公衆衛生上の危機にもかかわらず、大口顧客部門で 20.9%の収益成長（3 億 1,000 万ユーロ増）を達成したことをはじめ、事業活動が好調な水準を維持したことによるものでした。地域銀行でも小幅の増収（1.2%、3,900 万ユーロ増）を記録したことに加えて、アセット・ギャザリング部門でも小幅増収（1.6%、2,400 万ユーロ増）となりました。一方、リテール・バンキング部門では、フランス及び国外で、6.5%（1 億 600 万ユーロ）の減収を記録し、また、専門金融サービス部門でも 11.7%（8,000 万ユーロ）の減収となりました。

SRF（単一破綻処理基金）を除く基礎営業費用は、前年同期に比べ **5.2%減少**して 50 億 3,100 万ユーロとなりました。大口顧客部門では 5,500 万ユーロ（7.0%増）の費用増となりましたが、他の全ての部門で費用減となり、特にリテール・バンキング部門では全部門で費用が減少しました（地域銀行：8.9%減／1 億 9,800 万ユーロ減、LCL：5.1%減／2,900 万ユーロ減、国際リテール・バンキング：3.5%減／1,600 万ユーロ減）。これらの減少は主に、人件費及び旅費交通費の減少によります。全体として、当グループは 5.2 ポイントのプラスの乖離効果を示しました（地域銀行：プラス 10.1 ポイント）。当四半期の単一破綻処理基金への追加拠出金は 1 億 700 万ユーロでした（これに対して前年同期は 400 万ユーロ）。**SRF を除いた当四半期の基礎コスト比率は、前年同期比 3.3 ポイント改善され、58.9%**となりました。

この結果、**基礎営業総利益**は、前年同期比 5.4%増加して 33 億 9,800 万ユーロとなりました。SRF 拠出金を除いた場合の基礎営業総利益は、前年同期に比べ 8.6%増益の 35 億 500 万ユーロでした。

[5] *特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、32 ページ以降を参照のこと。*

信用リスク関連費用は、COVID-19 危機により全部門における正常債権に対する引当が増加したことから、大幅に増加しました（前年同期比 2 倍）。当四半期の信用リスク関連費用は 12 億 800 万ユーロとなり、これに対して前年同期は 5 億 9,800 万ユーロでした。資産の質は良好で、2020 年 6 月末現在の不良債権比率は 2.4%で安定した水準を維持し、不良債権引当率は当四半期中に 0.2 ポイント上昇して 84.5%となりました。貸倒引当金は、2020 年 6 月末現在で 201 億ユーロとなり、このうち 30%は正常債権（ステージ 1 及びステージ 2）に対する引当金でした。2020 年度第 1 四半期より、グローバル経済情勢に関連する状況と不確実性が徐々に考慮されるようになり、また、将来のリスクを見越した政府施策の予想効果が織り込まれました。引当水準は、状況の急激な悪化を反映し、いくつかの加重された経済シナリオを考慮に入れ、リテール・バンキング・ポートフォリオ及び企業ポートフォリオには一律調整、そして一部のターゲット部門すなわち観光、自動車、航空宇宙、小売、繊維品、エネルギー及びサプライチェーンには個別追加を適用して設定されました。正常債権に対する引当を決定するためにいくつかの加重された経済シナリオが使用され、その中には楽観的シナリオ（フランスの GDP が 2020 年にマイナス 7%、2021 年にプラス 7.3%、2022 年にプラス 1.8%）及びそれほど楽観的ではないシナリオ（フランスの GDP が 2020 年にマイナス 15.1%、2021 年にプラス 6.6%、2022 年にプラス 8%）が含まれていました。

2019 年度第 2 四半期から 2020 年度第 2 四半期にかけて増加した引当のうち、正常債権に対する引当の増加が 70%を占めました。**2020 年度上半期のリスク関連費用／残高[6]は、年換算で 45 ベーシス・ポイントとなりました**（これに対して、ローリング 4 四半期では 33 ベーシス・ポイント、年換算ベースの四半期では 51 ベーシス・ポイントでした）。ステージ 1 及びステージ 2 の債権に対する引当は 4 億 2,400 万ユーロとなり、これに対して前年度第 2 四半期は 0 ユーロ、2020 年度第 1 四半期は 3 億 9,800 万ユーロでした。確認されているリスクに対する引当は 7 億 8,500 万ユーロとなり、これに対して前年度第 2 四半期は 5 億 8,800 万ユーロ、2020 年度第 1 四半期は 5 億 1,600 万ユーロでした。

当四半期の**税引前基礎利益は、前年同期比 13.6%減の 23 億 4,300 万ユーロ**でした。税引前基礎利益には、上記の営業利益の変動に加えて、持分法適用会社の寄与 7,800 万ユーロ（主にクレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスの合弁事業により 17.0%減）及び他の資産に関する純利益 7,800 万ユーロ（前年同期はマイナス 800 万ユーロ）が含まれ、また、CA イタリアが計上した不動産に係るキャピタル・ゲインも含まれています。当四半期の基礎**税金費用は 39.5%減**でした。基礎税率は、2020 年初頭からのフランスの税率低下に従って 8.6 ポイント減の 19.8%でした。したがって、非支配持分控除前の基礎純利益は前年同期比 4.2%減、また、基礎純利益グループ帰属分は同 3.3%減でした。

クレディ・アグリコル・グループ ― 表示実績と基礎的実績（2020 年度上半期と 2019 年度上半期）

€m	H1-20 stated	Specific items	H1-20 underlying	H1-19 stated	Specific items	H1-19 underlying	H1/H1 stated	H1/H1 underlying
Revenues	16,462	(452)	16,914	16,682	(175)	16,857	(1.3%)	+0.3%
Operating expenses excl.SRF	(10,584)	(75)	(10,509)	(10,585)	-	(10,585)	(0.0%)	(0.7%)
SRF	(562)	-	(562)	(426)	-	(426)	+31.9%	+31.9%
Gross operating income	**5,316**	**(527)**	**5,843**	**5,671**	**(175)**	**5,846**	**(6.3%)**	**(0.0%)**
Cost of risk	(2,137)	-	(2,137)	(879)	-	(879)	x 2.4	x 2.4
Equity-accounted entities	168	-	168	188	-	188	(10.8%)	(10.8%)
Net income on other assets	84	-	84	3	-	3	x 29.2	x 29.2
Change in value of goodwill	(3)	-	(3)	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**3,428**	**(527)**	**3,955**	**4,983**	**(175)**	**5,158**	**(31.2%)**	**(23.3%)**
Tax	(789)	148	(937)	(1,576)	57	(1,633)	(50.0%)	(42.6%)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(1)	-	(1)	8	-	8	n.m.	n.m.
Net income	**2,638**	**(379)**	**3,017**	**3,415**	**(118)**	**3,534**	**(22.8%)**	**(14.6%)**
Non controlling interests	(248)	3	(251)	(253)	-	(253)	(2.0%)	(0.9%)
Net income Group Share	**2,391**	**(376)**	**2,767**	**3,163**	**(118)**	**3,281**	**(24.4%)**	**(15.7%)**
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	**64.3%**		**62.1%**	**63.5%**		**62.8%**	**+0.8 pp**	**-0.7 pp**
Net income Group Share excl. SRF	**2,913**	**(376)**	**3,289**	**3,569**	**(118)**	**3,687**	**(18.4%)**	**(10.8%)**

[6] *残高に対するリスク関連費用（年換算ベーシス・ポイント）*

2020 年度上半期に、**基礎純利益グループ帰属分は、2019 年度上半期に比べ 15.7%減少**しました。基礎収益が 0.3%増加し、SRF を除いた基礎営業費用が 0.7%減少した結果として、1.0 ポイントのプラスの乖離効果を示しました。SRF への拠出金は 31.9%増加して 5 億 6,200 万ユーロになりました。SRF 拠出金を除いた場合の基礎営業総利益は、前年同期に比べ 2.1%増益の 64 億 500 万ユーロでした。信用リスク関連費用は前年同期比 2.4 倍となり、税金費用は 42.6%減少しました。

地域銀行

当四半期の地域銀行の**営業活動**は**上昇傾向**を示し、**好調な残高の成長を維持しました**。**貸付残高**は 5,433 億ユーロ（国家保証融資を除くと 5,306 億ユーロ）となり、前年同期に比べ 8.4%（国家保証融資を除くと 5.9%）増加しました。**住宅ローン**（7%増）に加えて、**SME 及びスモールビジネス並びに農業者向け貸付**（14%増）が力強く成長しました。**貸付**は 2019 年度第 2 四半期対比で増加（32.6%増）しましたが、国家保証融資を除いた場合では減少しました（14.8%減）。**6 月は特に活動が活発化し**、2020 年 6 月の貸付組成水準は、2019 年 6 月の実績を上回りました（36.1%増、うち住宅ローン 6.9%増、国家保証有融資を除外した場合は 2.9%増）。力強い回復を立証する他の指標としては、ローン・シミュレーションの数及び貯蓄口座開設申込数が、2020 年 3 月から 2020 年 6 月の間でそれぞれ 75%及び 63%（オン・バランスシートの貯蓄口座に関連する増加は 67%）増加したことが挙げられます。**オン・バランスシート預金**は 4,959 億ユーロとなり、前年同期から 11.1%増加（要求払預金が 25.2%増、非課税貯蓄性預金は 8.7%増）した一方で、**オフ・バランスシート預金**は生命保険の AuM が微増（0.9%増）となり、証券及び譲渡可能証券に関係した AuM が 4.6%減少した結果、全体では前年同期とほぼ同水準（0.5%減の 2,647 億ユーロ）となりました。最後に、**顧客獲得総数は非常に活発な水準を維持**し（48 万人増）、6 月には急加速（11 万人増、前年同月比 1.9%増）があり、また、モバイル・バンキング顧客の増加（3 万 8,500 人増）も継続しています。こうした背景により、**顧客基盤の顕著な拡大が持続**しました（2020 年に 2 万 7,000 人の追加顧客、前年同月比 6.7%増）。

2020 年度第 2 四半期の地域銀行の基礎**収益**は 33 億 1,600 万ユーロとなり、前年同期に比べ 1.2%増加しました。**当グループは、地域銀行及び LCL において SME 及びスモールビジネス顧客にペナルティの免除及び当座借越枠を提供することで対応しています。金利マージン（純額）**は同水準を維持した一方で、**手数料収入**はペナルティに基づいた手数料及び支払手数料の減少によって減少（2.3%減）しました。**ポートフォリオ収益**は、国際基準に基づいた四半期末評価の結果として減少しましたが、2020 年度第 1 四半期からは回復しました。**SRF を除いた基礎コスト**は抑えられ、人件費の減少に伴い減少しました（当四半期は前年同期比 8.9%減少）。この結果、当第 2 四半期の基礎**営業総利益**は、プラスの乖離効果（+10.1 ポイント）の貢献により増加しました（19.6%増）。最終的に、基礎**リスク関連費用**の増加（24.9%増）はありましたが、地域銀行の基礎**純利益グループ帰属分**は 17.9%増加して 6 億 6,300 万ユーロとなりました。

当上半期の基礎**収益**は前年同期に比べ 3.2%減少し、基礎**営業総利益**も国際基準に基づいた四半期末評価の結果としての**ポートフォリオ収益**の減少に伴って減少しました（5%減）。基礎**コスト比率**は、**SRF を除いた基礎コスト**が減少（3.1%減）し、ほぼ同水準（0.1 ポイント上昇）となりました。最後に、基礎**リスク関連費用**の増加（2.1 倍）に伴い、地域銀行の基礎**純利益グループ帰属分**は 19.8%減少しました。

クレディ・アグリコル・グループの他の事業部門の業績については、本プレスリリースのクレディ・アグリコル S.A.に関するセクションに記述されています。

*　　*

*

SAS Rue La Boétie の会長とクレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長を務めるドミニク・ルフェーブルは、当グループの 2020 年度第 2 四半期の業績と事業について、「社会への貢献は、当グループが市民及び社会のために為す具体的な行動を通じて日々達成されます。現在のような前例のない状況において、当グループの従業員は顧客や経済を支援するために全力を尽くしています。当グループは、当グループの財務力と業務遂行を通じて、フランス全土の回復を支援しています。これこそが、現在もこれまでも、当グループの存在意義（*Raison d'être*）なのです。」とコメントしました。

クレディ・アグリコル S.A.

GOI の増加(2.9%増)及び健全な引当により当上半期の業績は堅調(前年同期比 13.7%減)、基礎 ROTE[7] は 8.5%

- **当四半期の表示実績**:9 億 5,400 万ユーロ(前年同期比-21.9%)、表示収益:48 億 9,700 万ユーロ(同-4.9%)。表示 GOI:18 億 3,800 万ユーロ(同-12.9%)
- 安定した収益(0.1%増)と極めて厳格な費用統制(1.9%減)により、当四半期の**基礎 GOI はほぼ横ばい**(21 億 3,000 万ユーロ、前年同期比 0.5%減)
- **コスト比率は**前年同期比 1.2 ポイント**改善**の 57.4%、プラスの乖離効果(プラス 2.0 ポイント)
- 基礎純利益グループ帰属分は、引当の増加(2.5 倍)により減少(10.9%減)
- 1 株当たり基礎的利益:当四半期:0.36 ユーロ(前年同期比-10.1%)、当上半期:0.53 ユーロ(前年同期比-15.5%)

貸付、預金及び保険における持続的な活動、クレディ・アグリコル S.A.の全ての事業部門にわたっての四半期末での力強い回復

- **高水準の顧客獲得**(2020 年度の個人事業主及び個人顧客の増加は LCL が 14 万 5,000 人、CA イタリアが 5 万 5,000 人)
- **当四半期の AuM(前年同期比 7.1%増)**、生命保険(同 1.6%増)、LCL の国家保証融資を除く貸付残高(住宅ロ―ンは前年同期比 7%増、スモールビジネス向け貸付同 11%増、企業向け貸付同 6%増)、CA イタリアの貸付残高(前年同期比 4.9%増)、連結消費者金融残高(同 2.2%増)。
- **資金流入**が LCL 及び CA イタリアで増加(LCL:オン・バランスシート預金の増加 13.6%及びオフ・バランスシート貯蓄が 1.2%減と安定、CA イタリア:AuM の増加 5.4%及びオン・バランスシート預金の増加 4.6%)
- 流入総額及び残高に占めるユニット・リンク型商品の割合の増加(流入総額:6 月末で前年同期比 12.4 ポイント増の 41.6%、残高:同 0.5 ポイント増の 22.7%)。ロックダウン解除後に損害保険事業が大幅に回復し、収益は回復力を示す(前年同期比 0.8%減)
- **資本市場における精力的な営業活動**(44%増)及びファイナンス事業における活発な活動(5.7%増)、慎重なリスク管理(6 月 30 日現在の VaR は 1,400 万ユーロで抑制されている)
- アムンディとソシエテ・ジェネラルの間の業務提携を更新して 5 年間延長。

引当の増加(2.5 倍)、半分は確認されているリスクに対する引当、半分は正常債権に対する引当

- **安定した NPL レシオ**(3.2%)、**不良債権引当率の上昇**(73.4%で 2020 年 3 月末比 0.9 ポイント上昇)、貸倒引当金残高は 101 億ユーロで、うち 24%は正常債権に対する引当、46%が法人向けローンで 27%が住宅ローンの分散化されたローンブック、EAD(デフォルト時エクスポージャー)の 73%は投資適格
- **引当の増加**(9 億 800 万ユーロで、うちステージ 1 に対する引当が 2 億 3,600 万ユーロ、ステージ 3 に対する引当 6 億 6,700 万ユーロ、前年同期比 2.5 倍、2020 年度第 1 四半期対比 46.2%増)
- 当上半期の年換算リスク関連費用の残高に対する比率は 74 ベーシス・ポイント

強固なソルベンシー

- **段階適用の CET1 レシオは 12.0%に大幅上昇(0.6 ポイント増)、SREP 要件を 4.1 ポイント上回る(6 月は対 3 月比で 0.6 ポイント増)。**ECB の規制調整措置(緊急規制緩和により+41 ベーシス・ポイント)及び当四半期の市場好転による有価証券ポートフォリオの未実現損益に対する影響(+19 ベーシスポイント)を含む。当第 2 四半期配当 1 株当たり 0.16 ユーロの引当。**全面適用ベースのレシオは 11.7%。**SGL の 2 ヵ月間の試算ベースの段階適用のレシオは 12.0%。
- **当四半期中の RWA は安定的**:支援ファクターを含む規制上の調整策(26 億ユーロ減)並びにクレディ・アグリコル CIB で実施された調整(15 億ユーロ減)が保険事業の持分法による評価額の増加(21 億ユーロ増)を相殺して、事業部門においてリスク・ウェイト資産が減少(特に SFS)。SGL の 2 ヵ月間の試算ベースでの RWA の減少 23 億ユーロ。

流動性の上昇

- 2020 年 6 月 30 日現在の準備金は同年 3 月 31 日現在から 670 億ユーロ増加して 4,050 億ユーロ。LCR の上昇:134.4%。[8]
- 2020 年 6 月、貸出活動の支援及び競争力のある流動性調達コストによる恩恵を享受するために、**TLTRO III 借入枠を 900 億ユーロ使用**、TLTRO II(一部)及び LTRO 借入枠引出分の返済。

---

[7] *2020 年度上半期実績に基づいて計算された年換算ベースの基礎 ROTE*

[8] *12 カ月平均のレシオ*

- 120 億ユーロ規模の中・長期債市場発行プログラムの 96%が 7 月末時点で完了。

当上半期中の株式及び債券市場における緊張により、Switch が発動。

- 特殊要因調整後のクレディ・アグリコル S.A.のリスク関連費用に 6,500 万ユーロのプラス影響（純利益グループ帰属分ではプラス 4,400 万ユーロ）。ソルベンシーに対する影響に重要性はなし。

2020 年度第 2 四半期及び上半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2020 年 8 月 5 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A. ー 表示実績と基礎的実績（2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期）

€m	Q2-20 stated	Specific items	Q2-20 underlying	Q2-19 stated	Specific items	Q2-19 underlying	Q2/Q2 stated	Q2/Q2 underlying
Revenues	**4,897**	**(288)**	**5,185**	**5,149**	**(30)**	**5,179**	**(4.9%)**	**+0.1%**
Operating expenses excl.SRF	(2,980)	(5)	(2,976)	(3,033)	-	(3,033)	(1.7%)	(1.9%)
SRF	(79)	-	(79)	(6)	-	(6)	x 13.8	x 13.8
Gross operating income	**1,838**	**(293)**	**2,130**	**2,111**	**(30)**	**2,140**	**(12.9%)**	**(0.5%)**
Cost of risk	(842)	65	(908)	(358)	-	(358)	x 2.4	x 2.5
Equity-accounted entities	88	-	88	108	-	108	(18.3%)	(18.3%)
Net income on other assets	82	-	82	(1)	-	(1)	n.m.	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**1,166**	**(227)**	**1,393**	**1,861**	**(30)**	**1,890**	**(37.3%)**	**(26.3%)**
Tax	(86)	72	(158)	(485)	9	(494)	(82.3%)	(68.1%)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(0)	-	(0)	8	-	8	n.m.	n.m.
Net income	**1,080**	**(155)**	**1,235**	**1,384**	**(20)**	**1,404**	**(21.9%)**	**(12.0%)**
Non controlling interests	(126)	2	(129)	(161)	0	(162)	(21.9%)	(20.5%)
Net income Group Share	**954**	**(153)**	**1,107**	**1,222**	**(20)**	**1,242**	**(21.9%)**	**(10.9%)**
Earnings per share (€)	**0.31**	**(0.05)**	**0.36**	**0.39**	**(0.01)**	**0.40**	**(22.0%)**	**(10.1%)**
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	**60.9%**		**57.4%**	**58.9%**		**58.6%**	**+2.0 pp**	**-1.2 pp**
Net income Group Share excl. SRF	**1,020**	**(153)**	**1,173**	**1,227**	**(20)**	**1,247**	**(16.8%)**	**(6.0%)**

業績

2020 年度第 2 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の**表示純利益グループ帰属分**は、2019 年度第 2 四半期の 12 億 2,200 万ユーロに対して **9 億 5,400 万ユーロ**となりました。当四半期に、**特殊要因**は**純利益グループ帰属分に対して 1 億 5,300 万ユーロのマイナス影響**をもたらしました。

これらの特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分** [9] は、前年同期比 10.9%減の **11 億 700 万ユーロ**でした。この減少は、主にリスク関連費用の増加によります。この増加の半分は確認されているリスクに対する引当に関連し、残りの半分は正常債権に対する引当を算出するためのパラメータを現在の状況を考慮して改訂したことに関連するものでした。

当四半期における**特殊要因**（純利益グループ帰属分に対して 1 億 5,300 万ユーロのマイナス影響）には、事業中断保険契約を締結している SME 顧客及びスモールビジネス顧客に対する協調支援の影響が LCL の収益に対してマイナス 200 万ユーロ及び保険収入に対してマイナス 1 億 4,300 万ユーロ（純利益グループ帰属分に対する影響、それぞれ、マイナス 100 万ユーロ及びマイナス 9,700 万ユーロ）含まれていることに加えて、2020 年 6 月の月初にクレディ・アグリコル S.A.が実行した負債管理取引に係る現金調整の影響（収益影響マイナス 4,100 万ユーロ及び純利益グループ帰属分影響マイナス 2,800 万ユーロ）が含まれています。これに加えて、変動の大きい経常的な会計項目が純利益グループ帰属分に対してマイナス 6,800 万ユーロの影響を与えました。具体的には、DVA（債務評価調整、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益）及びヘッジされていない発行体スプレッドの変動に伴う資金調達評価調整（FVA）部

[9] *特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、23 ページ以降を参照のこと。*

分の合計額マイナス 500 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 5,000 万ユーロ並びに住宅購入貯蓄プラン引当金の変動マイナス 1,400 万ユーロの影響がありました。特殊要因にはまた、最近 CACEIS が取得した企業（KAS バンク及び S3）の統合費用の影響が営業費用でマイナス 500 万ユーロ及び純利益グループ帰属分にマイナス 200 万ユーロ含まれています。2020 年度第 2 四半期における Switch 保証メカニズムの発動は、アセット・ギャザリング部門のリスク関連費用に 6,500 万ユーロのプラス影響をもたらしました。2019 年度第 2 四半期には、特殊要因は、**純利益グループ帰属分に 2,000 万ユーロのマイナス影響**を及ぼしました。特殊要因に含まれるのは、債務評価調整（DVA、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益）マイナス 300 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 600 万ユーロ及び住宅購入貯蓄プラン引当金マイナス 1,100 万ユーロなどの、変動の大きい経常的な会計項目のみでした。

2020 年度第 1 四半期の終わりから第 2 四半期の初めにかけて経済の停止に近い状態をもたらした、フランス及び他の大半の欧州諸国における COVID-19 危機に関連した 2 カ月間のロックダウンは、各部門の 2020 年度第 2 四半期の業績に影響を及ぼしました。それにもかかわらず、当四半期の**営業総利益**は、安定した収益（前年同期比 0.1%増の 51 億 8,500 万ユーロ）と事業部門の厳格な費用統制（1.9%減の 29 億 7,600 万ユーロ）の寄与により、21 億 3,000 万ユーロ（同 0.5%減）と堅調な実績となりました。このことは、クレディ・アグリコル S.A.の事業部門の優秀な業務効率を証明するもので、2020 年度第 2 四半期のコスト比率は、前年同期に比べ 1.2 ポイント改善されました。しかし、**基礎純利益グループ帰属分**は 10.9%減少しました。この減少はリスク関連費用の増加によるもので、2020 年度第 2 四半期のリスク関連費用は 9 億 800 万ユーロに上り（前年同期比 2.5 倍）、その半分は確認されているリスクに対する引当の増加によるもので、残りの半分は正常債権に対する引当を算出するためのパラメータを改訂したことによるものでした。大口顧客部門は、営業総利益の大幅な増加（26.7%増）にもかかわらず、リスク関連費用の 5 倍増による影響を受けました。結果として、同部門の純利益グループ帰属分は 5.3%減少しました。リテール・バンキング部門と専門金融サービス部門は、2 カ月間のロックダウンとリスク関連費用の大幅増により、深刻な影響を受けました。これらの部門の純利益グループ帰属分は、それぞれ 39%及び 27.9%減少しました。対照的に、アセット・ギャザリング部門では、当四半期の好調な市況により第 1 四半期における悪影響が相殺され、当四半期の純利益グループ帰属分が増加しました（11.0%増）。

2020 年度第 2 四半期の**基礎収益**は 51 億 8,500 万ユーロとなり、前年同期とほぼ同水準（0.1%増）となりました。アセット・ギャザリング部門は 1.5%増と、小幅の増収を記録しました。保険は市場の影響が第 2 四半期に第 1 四半期と比べ改善したこと（第 2 四半期は 1 億 4,000 万ユーロ）の恩恵を受け、13.5%増と大幅に増加しましたが、資産運用（7.5%減）は好調な水準の成功報酬収入及び財務実績の改善にもかかわらず、運用手数料収入（純額）の減少による悪影響を受けました。リテール事業の活動（リテール・バンキング部門及び専門金融サービス部門）は経済の停止に近い状態による深刻な影響を受け、基礎収益はそれぞれ 6.6%及び 11.7%の減収となりました。他方、当四半期中の企業及び機関投資家向けの活動は特に活発で、大口顧客部門で高水準の収益を生み出しました。資本市場における非常に高水準の活動の結果、当第 2 四半期の収益は前年同期に比べ 44%の増収となりました。ファイナンス事業の活動も当四半期は高水準となり、5.8%の増収を記録しました。最後に、資産運用サービス部門も新規顧客の獲得及び 2019 年末に行った買収に関連した連結範囲拡大の影響により、23.9%の増収となりました。経常収益、すなわち残高項目（貸付残高／顧客資産／運用資産）または保険契約（損害保険、死亡・高度障害保険）に付随する収益は、収益合計の 77%を占めました。

当四半期の **SRF を除いた基礎営業費用**は 1.9%減少し、その結果として指標は優れた水準の業務効率を示しました。コスト比率は 2019 年度第 2 四半期に比べて 1.2 ポイント改善されて 57.4%となり、また、乖離効果はプラス 1.3 ポイントとなりました。SRF を除いた費用が 7.0%増加した大口顧客部門（主に、法人営業及び投資銀行部門の 2019 年度第 2 四半期における人件費の引当戻入に伴うベース効果及び資産運用サービス部門における最近の買収に関連する連結範囲拡大の影響による）を除き、他の全ての事業部門では当四半期の SRF を除いた費用が減少しました。アセット・ギャザリング部門では、資産運用における費用減少（変動報酬の減少及びパイオニアの統合による現在進行中の費用上の相乗効果により 7.5%減少）が主要因となり、保険における費用増加（主に部門の発展を支えるための人員増に関連して 4.1%増加）を相殺し、3.7%減少しました。リテール・バンキング部門は、フランスにおける人件費の減少並びにイタリアにおける外部費用と旅費の節減の結果、SRF を除いた費用は減少しました（4.6%減）。同様に、専門金融サービス部門も、特に CA コンシューマー・ファイナンスにおける厳格な費用統制により、SRF を除いた費用は 6.2%減少しました。2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期の間の SRF を除いた基礎費用の削減 5,700 万ユーロのうち、COVID-19 危機による費用の減少は 2,300 万ユーロで、その内訳は回避された費用 8,000 万ユーロ（旅費及び外部費用）並びに従業員の安全のための費用増 5,700 万ユーロでした。SRF への拠出は当四半期に 7,900 万ユーロの追加拠出（2019 年度第 2 四半期は 600 万ユーロ）を行い完了しました。

この結果、**基礎営業総利益**は 2019 年度第 2 四半期に比べマイナス 0.5%と微減の 21 億 3,000 万ユーロとなりましたが、これは公衆衛生上の危機並びにフランス及びイタリアにおける 2 カ月間のロックダウンを考慮すると高い回復力を示しています。大口顧客部門は 20.9%増、アセット・ギャザリング部門は 6.5%増、リテール・バンキング部門は 11.7%減、専門金融サービス部門は 16.7%減でした。SRF 拠出金を除いた場合の基礎営業総利益は、前年同期に比べ 2.9%増の 22 億 900 万ユーロでした。

2020 年 6 月 30 日現在のリスク指標はクレディ・アグリコル S.A.の資産の質とリスクに対する引当の水準を改めて証明しました。ローン・ポートフォリオは分散化され、主に大企業（クレディ・アグリコル S.A.レベルで残高総額の 46%）及び住宅ローン（同 27%）に向けられています。貸倒懸念債権の比率は 3.2%と依然として低水準にある（2020 年 3 月 31 日に比べ 0.1 ポイント増加）一方で、不良債権引当率は 73.4%となりました（当四半期中に 1.0 ポイント上昇し、貸倒引当金総額は 101 億ユーロとなりました）。この貸倒引当金のうち、24%は正常債権に対する引当でした。**リスク関連費用**は前年度第 2 四半期の 3 億 5,800 万ユーロに対して 2.5 倍、5 億 5,000 万ユーロ増と大幅に増加して 9 億 800 万ユーロとなりました。また、2020 年度第 1 四半期の 6 億 2,100 万ユーロに対しても大幅に増加しました。この増加のうち、48%は IFRS 第 9 号の規定の適用及び引当パラメータの改訂に伴う正常債権（ステージ／バケット 1 及び 2）に対する追加引当によるもので、52%は確認されているリスク（ステージ／バケット 3）に対する引当金の積み増しによるものでした。2020 年度第 2 四半期のリスク関連費用 9 億 800 万ユーロは、正常債権（ステージ 1 及び 2）に対する引当 2 億 3,600 万ユーロ（これに対して 2019 年度第 2 四半期は 2,600 万ユーロの戻入、2020 年度第 1 四半期は 2 億 2,300 万ユーロの引当）と確認されているリスク（ステージ 3）に対する引当 6 億 6,700 万ユーロ（これに対して 2019 年度第 2 四半期は 3 億 7,100 百万ユーロ、2020 年度第 1 四半期は 3 億 8,200 万ユーロ）で構成されています。当上半期の残高に対するリスク関連費用は年換算で 74 ベーシス・ポイントでした（ローリング 4 四半期では 55 ベーシス・ポイント、第 2 四半期の年間換算ベースでは 86 ベーシス・ポイント）。リスク関連費用の大きな原因となった 4 つの事業部門は、同様の変動を示しています。LCL のリスク関連費用は 1 億 1,700 万ユーロ（2019 年度第 2 四半期対比で 2.3 倍、2020 年度第 1 四半期に対して 16.3%増）となり、残高に対するリスク関連費用は上半期の年換算で 33 ベーシス・ポイント（ローリング 4 四半期では 26 ベーシス・ポイント、2020 年度第 2 四半期の年換算は 35 ベーシス・ポイント）に増加しました。当第 2 四半期の CA イタリアのリスク関連費用は、前年同期の水準の 2.4 倍、2020 年度第 1 四半期に対しては 77.5%増の 1 億 4,600 万ユーロとなり、残高に対するリスク関連費用は上半期の年換算で 102 ベーシス・ポイント（ローリング 4 四半期では 79 ベーシス・ポイント、2020 年度第 2 四半期の年換算は 129 ベーシス・ポイント）に増加しました。クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスは、当第 2 四半期のリスク関連費用が 2 億 1,800 万ユーロとなり前年同期比 85.1%増加しました（2020 年度第 1 四半期対比では 32.8%増）。残高に対するリスク関連費用も上半期の年換算で 211 ベーシス・ポイント（ローリング 4 四半期では 172 ベーシス・ポイント、2020 年度第 2 四半期の年換算は 241 ベーシス・ポイント）に増加しました。最後に、ファイナンス事業では、当四半期のリスク関連費用は前年同期の僅か 3,900 万ユーロに対して 3 億 1,200 万ユーロとなり、2020 年度第 1 四半期の水準の 2.3 倍となりました。ファイナンス事業の残高に対するリスク関連費用は上半期の年換算で 78 ベーシス・ポイントでした（ローリング 4 四半期では 50 ベーシス・ポイント、当第 2 四半期の年換算ベースでは 102 ベーシス・ポイント）。

2020 年度第 1 四半期より、グローバル経済情勢に関連する状況と不確実性が徐々に考慮されるようになり、また、将来のリスクを見越した政府施策の予想効果が織り込まれました。引当水準は、状況の急激な悪化を反映し、いくつかの加重された経済シナリオを考慮に入れ、リテール・バンキング・ポートフォリオ及び企業ポートフォリオには一律調整、そして一部のターゲット部門すなわち観光、自動車、航空宇宙、小売、繊維品、エネルギー及びサプライチェーンには個別追加を適用して設定されました。正常債権に対する引当を決定するためにいくつかの加重された経済シナリオが使用され、その中には楽観的シナリオ（フランスの GDP が 2020 年にマイナス 7%、2021 年にプラス 7.3%、2022 年にプラス 1.8%）及びそれほど楽観的ではないシナリオ（フランスの GDP が 2020 年にマイナス 15.1%、2021 年にプラス 6.6%、2022 年にプラス 8%）が含まれていました。

持分法適用会社の寄与は、資産運用への合弁事業からの貢献の増加（26.6%増）はありましたが、特にコンシューマー・ファイナンスへの合弁事業の貢献の減少（当第 2 四半期は、主として Wafasalaf におけるリスク関連費用の増加 2,600 万ユーロに関連して前年同期比 22.7%減少）を反映して、**18.3%減**の 8,800 万ユーロとなりました。

当四半期の**他の資産に関する純利益**は、主に CA イタリアにおける不動産売却益の計上 6,500 万ユーロにより、8,200 万ユーロの増益となりました。

したがって、非継続事業と非支配持分の控除前の税引前基礎利益[10]**は 26.3%減**の 13 億 9,300 万ユーロでした。**基礎的実効税率**は、前年同期と比べて 15.6 ポイント減の **12.1%**となる一方、基礎税金費用は 68.1%減の 1 億 5,800 万ユーロでした。2020 年度第 2 四半期の税率は特に、2020 年 1 月 1 日付のフランスにおける税率の引き下げ(34.43%から 32.02%)、適用される税率がフランスよりも低い国外子会社によるプラスの影響、及びイタリアの *affrancamento* 税還付制度に関連したアゴスに対する 6,300 万ユーロの税還付の影響を受けました。**これにより、非支配持分控除前の基礎純利益は 12.0%減少しました。**

非支配持分に帰せられる純利益は 20.5%減少して 1 億 2,900 万ユーロとなりました。これはいくつかの相反する影響によるもので、まず、主にアムンディ(9.7%減)及び CA イタリア(57.0%減)における少数株主持分が減少したこと、次に CASEIS においてサンタンデールが恩恵を受ける非支配持分に帰せられる部分が増加(79.0%増)したことによります。

当四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は、前年同期比 **10.9%減の 11 億 700 万ユーロ**でした。SRF 拠出金を除いた場合は、6.0%の減益でした。

クレディ・アグリコル S.A. ― 表示実績と基礎的実績(2020 年度上半期と 2019 年度上半期)

€m	H1-20 stated	Specific items	H1-20 underlying	H1-19 stated	Specific items	H1-19 underlying	H1/H1 stated	H1/H1 underlying
Revenues	**10,097**	**(225)**	**10,322**	**10,004**	**(78)**	**10,081**	**+0.9%**	**+2.4%**
Operating expenses excl.SRF	(6,235)	(65)	(6,170)	(6,136)	-	(6,136)	+1.6%	+0.5%
SRF	(439)	-	(439)	(337)	-	(337)	+30.0%	+30.0%
Gross operating income	**3,423**	**(290)**	**3,713**	**3,530**	**(78)**	**3,607**	**(3.0%)**	**+2.9%**
Cost of risk	(1,463)	65	(1,529)	(582)	-	(582)	x 2.5	x 2.6
Equity-accounted entities	178	-	178	193	-	193	(7.7%)	(7.7%)
Net income on other assets	87	-	87	22	-	22	x 4	x 4
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**2,226**	**(224)**	**2,450**	**3,163**	**(78)**	**3,240**	**(29.6%)**	**(24.4%)**
Tax	(347)	55	(401)	(880)	23	(903)	(60.6%)	(55.6%)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(1)	-	(1)	8	-	8	n.m.	n.m.
Net income	**1,879**	**(170)**	**2,048**	**2,291**	**(54)**	**2,346**	**(18.0%)**	**(12.7%)**
Non controlling interests	(287)	3	(290)	(307)	1	(308)	(6.4%)	(5.6%)
Net income Group Share	**1,592**	**(167)**	**1,758**	**1,985**	**(53)**	**2,038**	**(19.8%)**	**(13.7%)**
Earnings per share (€)	**0.47**	**(0.06)**	**0.53**	**0.61**	**(0.02)**	**0.63**	**(22.4%)**	**(15.5%)**
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	**61.7%**		**59.8%**	**61.3%**		**60.9%**	**+0.4 pp**	**-1.1 pp**
Net income Group Share excl. SRF	**1,984**	**(167)**	**2,151**	**2,297**	**(53)**	**2,350**	**(13.6%)**	**(8.5%)**

2020 年度上半期の表示純利益グループ帰属分は、前年同期の 20 億 3,800 万ユーロから 19.8%減少して 19 億 8,500 万ユーロとなりました。

2020 年度上半期の特殊要因は、表示純利益グループ帰属分に **1 億 6,700 万ユーロ**のマイナスの影響を与えました。上述の当第 2 四半期の項目に加えて、2020 年度第 1 四半期の項目が 5,400 万ユーロのマイナス影響を与えました。これらは変動の大きい経常的な会計項目でした。具体的には、DVA がマイナス 1,400 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジがプラス 8,100 万ユーロ、並びに住宅購入貯蓄プラン引当金の変動が LCL でマイナス 700 万ユーロ、コーポレート・センター部門でマイナス 2,000 万ユーロの影響を与えました。**2019 年度上半期の特殊要因**は、純利益グループ帰属分に 5,300 万ユーロのマイナスの影響を与えました。上述の 2019 年度第 2 四半期の特殊要因と比較して、これらの項目は 2019 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分に 3,300 万ユーロのマイナス影響を与えました。これらは変動の大きい経常的な会計項目でした。具体的には、DVA がマイナス 600 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジがマイナス

[10] *クレディ・アグリコル S.A.に関連する特殊要因の詳細については 23 ページを参照のこと。*

1,400 万ユーロ、並びに住宅購入貯蓄プラン引当金の変動が LCL でマイナス 500 万ユーロ、コーポレート・センター部門でマイナス 800 万ユーロの影響を与えました。

これらの特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分**は、**前年同期比 13.7%減の 17 億 5,800 万ユーロ**でした。

1 株当たり基礎的利益は、前年同期比 **15.5%減の 0.53 ユーロでした**。

その他ティア 1 債券のクーポン控除後の年換算 **RoTE**[11]（無形資産を除いた有形グループ帰属株主資本利益率）は、**2020 年度上半期**に 8.5%となり、2019 年度（11.0%）を下回りました。当上半期の各事業部門の年換算 RoNE（正味持分利益率）は、業績の低下に伴い前年同期比横ばいまたは低下しました。

基礎収益は、大口顧客部門の大幅な増収（15.0%増）により、2019 年度上半期に対して **2.4%増加**しました。一方、リテール事業の活動は公衆衛生危機による深刻な打撃を受け（リテール・バンキング部門は 3.0%減、専門金融サービス部門は 8.3%減）、アセット・ギャザリング部門には市場の悪影響が重くのしかかりました（4.3%減）。

基礎**営業費用**は、全体として前年同期と同水準でした（当上半期に前年同期の 3 億 3,700 万ユーロから 30.0%増と大幅に増加して 4 億 3,900 万ユーロとなった SRF 拠出金を除けば **0.5%増**と限定的な増加）。**SRF を除いた当上半期の基礎コスト比率は**、1.1 ポイント改善され、**59.8%**となりました。SRF 拠出金を除いた場合の基礎営業総利益は、前年同期に比べ 5.3%増益の 41 億 5,200 万ユーロでした。

最後に、**リスク関連費用**は大幅に増加しました（2019 年度上半期の 5 億 8,200 万ユーロから 2.5 倍、9 億 4,700 万ユーロ増の 15 億 2,900 万ユーロ）。

活動

事業活動は当四半期を通じて好調を維持し、運用資産が資産運用及び生命保険でそれぞれ 7.1%及び 1.6%増加し、貸付残高もリテール・バンキング部門で増加（LCL が国家保証融資を除き 7%増、CA イタリアが 4.9%増）し、連結消費者金融残高（2.2%増）も増加するなど、好調な実績を示しました。資金の流入は、LCL（オン・バランスシート預金は 13.6%増。オフ・バランスシート預金は 1.2%減と安定）及び CA イタリア（AuM が 5.4%増、オン・バランスシート預金が 4.6%増）で増加しました。ユニット・リンク型商品が流入総額に占める割合が増加（2019 年度第 2 四半期から 12.4 ポイント増の 41.6%）し、残高に占める割合も 22.7%へと増加しました（2019 年度第 2 四半期から 0.5 ポイント増）。個人保障保険からの収益は堅調（2019 年度第 2 四半期対比 3.5%減）で、損害保険からの収益もまた、堅調（2019 年度第 2 四半期対比 0.8%減）でした。顧客獲得総数は力強い勢いを示し（2020 年度に LCL でスモールビジネス及び個人顧客 14 万 5,000 人増、CA イタリアで 5 万 5,000 人の顧客増）、顧客基盤は引き続き拡大しました（2020 年度に LCL で 1 万人増、CA イタリアで 1,500 人増）。資本市場における営業活動は非常に好調（2019 年度第 2 四半期対比 44%増）で、ファイナンス事業の活動も活発（5.7%増）でしたが、一方でリスク管理は慎重を維持しました（6 月 30 日現在の VaR は 1,400 万ユーロで抑制）。

取引は 6 月に急激に上昇し、LCL での住宅ローンのシミュレーションの増加（2020 年 3 月から 6 月の間で 38.8%増）、専門金融サービス部門における成約の増加（2020 年 4 月から 6 月の間において、CA コンシューマー・ファイナンスで 170%増、CAL&F のリースで 90%増）、及び損害保険の新規契約数の増加（2020 年 3 月から 6 月の間で 63%増）がありました。

貯蓄/退職保険部門では、残高（貯蓄、退職保険、死亡・高度障害保険）が 2019 年 6 月時点と比べて 1.6%増の 3,021 億ユーロに達しました（1 年間で 3.9%増となったユニット・リンク型保険の 685 億ユーロを含む）。ユニット・リンク型契約は、残高の 22.7%を占めました（前四半期比 1.2 ポイント増）。2020 年度第 2 四半期の保険料収入は 38 億ユーロとなり（2019 年度第 2 四半期対比で 51.8%減）、流入額合計（純額）はマイナス 9 億ユーロとなり、2019 年度第 2 四半期に比べ 43 億ユーロ減少しました。当四半期の特徴は、ユーロ資金の流出（18 億ユーロ）とユニット・リンク型契約の資金流入額がプラス（純額で 9 億ユーロ）となったことです。ユニット・リンク型契約は当四半期に前年同期比で 12.4 ポイント増、前四半期比で 0.3 ポイント増となり、資金流入額全体の 41.6%を占めました。クレディ・アグリコル・アシュアランスのソルベンシーは安定した水準にあり、われわれの管

[11] *各事業部門の ROTE（有形株主資本利益率）及び RONE（調整株主資本利益率）の計算の詳細については 26 ページを参照のこと。*

理範囲の上限である 160～200%を十分に上回る 233%でした。保険契約者配当準備金（PPE）は 6 億ユーロ増加して、2020 年 6 月 30 日現在で残高合計の 5.5%となる 115 億ユーロに達しました。この PPE はユーロ建て契約について年換算の平均総資産利益率を裏付けるために使用することができ、この利益率は 2020 年 6 月 30 日現在で 2.50%[12] に達し、これは平均最低保証利率（2019 年末現在で 0.28%）を大幅に上回っています。

損害保険部門では、クレディ・アグリコル・アシュアランスの当四半期の保険料収入が前年同期に比べ 0.8%減と僅かに減少しました。パシフィカは、当四半期中に 4 万 3,000 件の契約純増を記録し、契約件数は 2020 年 6 月末時点でおよそ 1,420 万件となり、前年同月末時点から 3.1%増加しました。個人客のクロスセル・レート [13] は、LCL ネットワーク（2020 年 6 月末時点では前年 6 月から 0.6 ポイント増の 25.2%）、地域銀行のネットワーク（2020 年 6 月末時点では前年 6 月から 1.0 ポイント増の 41.0%）、及び CA イタリア（2020 年 6 月末時点では前年 6 月から 1.3 ポイント増の 15.9%）で増加しました。コンバインドレシオは、前年同期から 2.5 ポイントの微増となる 97.7%と引き続き抑制されています。**死亡・高度障害/債権者及び団体保険部門**では、当四半期の収益は約 9 億 5,800 万ユーロに達しましたが、前年同期比では 3.5%減少しました。

当四半期、**資産運用部門（アムンディ）**では、前例のない状況下にもかかわらず、資金流出（純額）は限定的（マイナス 8 億ユーロ）となり、中長期（MLT）資産に係る流入も好調でした（プラス 35 億ユーロ）。リテール顧客（合弁事業を除く）からの MLT の流入は、ネットワークにおける抵抗力（フランスは 12 億ユーロ増、国外は 1 億ユーロ減）により引き続き底堅く、17 億ユーロの減少にとどまりました。グループ外販売会社セグメントでは、当四半期における資金流出（マイナス 27 億ユーロ）は 4 月に集中し、6 月には資金流入はプラスに戻りました。資金流入（純額）は、合弁事業では好調（プラス 31 億ユーロ）で、機関投資家及び企業の MLT も、機関顧客及びソブリン顧客のリスク選好の回復により力強い動きを示しました（プラス 46 億ユーロ）。この結果、運用資産は 2020 年 6 月末現在で、2019 年 6 月末に比べ 7.1%増の 1 兆 5,920 億ユーロと高水準を維持しました。運用資産に対する市場影響は、2020 年 3 月末と比べプラス 649 億ユーロでした。また、当四半期中に、アムンディとソシエテ・ジェネラルの間の業務提携を更新して 5 年間延長しました。

リテール・バンキング部門の活動は、優れた回復力を示しました。住宅ローンの組成は、LCL では減少（当四半期は前年同期比 9.8%減）しましたが、CA イタリア（当四半期は 0.8%減でしたが、住宅ローン組成は 6 月に明らかに回復し、2020 年 4 月との比較では 26.9%増加）ではほぼ同水準となりました。しかし、リテール・バンキング部門のローン残高は増加が継続しました。フランスにおいて、LCL で特に住宅ローン（8.5%増）、法人向けローン（18.0%増）及びスモールビジネス（27.3%増）がけん引して 2020 年 6 月末のローンが前年 6 月末に比べ 11.2%増加しました。CA イタリアでも大企業及び SME 向けローン（8.9%増）に加えて個人向けローン（4.2%増）及びスモールビジネス向けローン（1.5%増）がけん引したことにより、2020 年 6 月末のローンが前年 6 月末に比べ 4.9%増加しました。さらに、イタリアを除く国際リテール・バンキングでも、ウクライナ（10.8%減 [14]）及びポーランド（3.4%減 [14]）での減少はあったものの、特にエジプト（19.0%増 [14]）及びモロッコ（3.8%増 [14]）の増加により 2020 年 6 月末のローン残高が前年 6 月末に比べ 1.8%増加しました。フランスでは、当四半期の LCL の住宅ローンの条件再交渉は残高ベースで 2020 年度第 1 四半期の 9 億ユーロから 6 億ユーロに 3 億ユーロ減少し、過去最高であった 2016 年度第 4 四半期の 52 億ユーロを大幅に下回る水準を維持しています。オフ・バランスシート預金は LCL では、市場影響が当四半期に上昇傾向に転じたものの依然として悪影響を残し、ほぼ同水準（0.7%減）となりましたが、CA イタリアでは増加しました（4.6%増）。オン・バランスシート預金は、特に要求払預金（28.2%増）と非課税貯蓄性預金（4.9%増）の増加がけん引役となった個人貯蓄の増加により、フランスの LCL では 2019 年 6 月時点と比べて 13.1%増でした。オン・バランスシート預金は CA イタリアでも、特に当年度初めから増加した企業からの預金が要因となり、4.6%増加しました。また、イタリアを除いた国際リテール・バンキングでもモロッコ（7.5%増 [14]）及びウクライナ（11.4%増 [14]）がけん引役となり 5.5%増加しました。自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは LCL が 25.2%（0.6 ポイント上昇）、CA イタリアが 15.9%（1.3 ポイント上昇）と、それぞれ上昇しました。

[12] *プレディカにおける利益率*

[13] *クロスセル・レート：最低でも 1 件の保険商品を保有するバンキング部門の個人客の比率（パシフィカの試算値）。対象範囲：自動車、住宅、健康、生命・傷害、及び法的保護の各保険。*

[14] *外国為替の影響を除く。*

専門金融サービス部門では、CA コンシューマー・ファイナンスの収益が、特に**アゴス**における減少（51%減）及び**自動車ローン提携事業**の減少（43%減。うち、FCA バンクで 51%減）により、2019 年度第 2 四半期に比べ 40%減少して 71 億ユーロになりました。**地域銀行及び LCL の寄与**も大きく減少しました（それぞれ 41.3%及び 40%減）。GAC Sofinco の活動の減速はより緩やかで、2019 年度第 2 四半期に比べ成約は 10%の減少となりました。全体として、**活動は 6 月から活発化**し、CA コンシューマー・ファイナンスの組成は、2020 年 4 月から 2020 年 6 月の間で 170%（23 億ユーロ）増加しました（フランスで 219%増、国外で 145%増）。具体的には、中国における組成は 2020 年 3 月と 2020 年 6 月の間で 97%増加しました。CA コンシューマー・ファイナンスは、引き続き顧客を支援し、当四半期中に 40,000 件の支払猶予を認めました。こうした状況を背景に、**管理消費者金融**は、前年同期に比べ 2.4%減少の総額 884 億ユーロとなりました。**自動車ローン提携事業**の寄与が減少し（6.6%減）、**グループ会社の寄与**が増加しました（1.9%増）。**連結ローン**総額は、343 億ユーロとなり、前年同期とほぼ同水準（0.2%増）でした。**CAL&F の組成**も、前年同期比で減少しました。具体的には、**企業向けファクタリングの組成**が、特に**フランス**で減少（51%減の 18 億ユーロ）し、9.2%減の 38 億ユーロとなりました。対照的に、**国外**の組成はドイツで大口契約が開始されたことから、16 億ユーロ増加した 19 億ユーロとなりました。こうした背景から、当四半期の**ファクタリング収益**は前年同期に比べ 24.6%減少して 155 億ユーロとなりました。また、**新規の商業リース組成**は特に**フランス**及び**ポーランド**で減少し（それぞれ 2 億 1,500 万ユーロ及び 8,400 万ユーロ減）、2019 年度第 2 四半期から 23.9%減の 10 億ユーロとなりましたが、6 月から取引は上昇に転じ、2020 年 4 月から 6 月の間で組成は 90%増加しています。最後に、**リース残高**は前年同期に比べ 2.2%増加して 151 億ユーロとなりました。

当四半期の**大口顧客部門**の活動は非常に力強く、2020 年度第 2 四半期の基礎**収益**は、前年同期比増収（20.9%増の 18 億ユーロ）となりましたが、特に**全ての傘下部門からの力強い寄与**により**資本市場及び投資銀行部門**において増加しました（38%増の 7 億 8,000 万ユーロで、うち資本市場は 44%増）。**債券組成**は**過去最高の活動水準**を示し、取扱高は 2019 年度第 2 四半期に比べ、倍増しました。**クレディ・アグリコルの法人営業及び投資銀行部門**のこのセグメントにおける主導的な立場が確認されました（フランス社債全体で第 1 位、全世界のグリーン・ソーシャル・サステナビリティ・ボンドで第 1 位 [15]）。**債券・信用・為替**（FICC）部門も**非常に優れた実績**（2020 年度第 2 四半期に CVA を含め前年同期比 44%の収益成長）を達成し、**当グループのリレーションシップ・モデルの有効性**を立証しました。2020 年 6 月 30 日現在の規制上の **VaR** は、僅かに増加しましたが、**低い水準を維持し、当グループの慎重なリスク管理**に沿ったものとなっています（2020 年 3 月 31 日現在の 2,220 万ユーロに対して 2020 年 6 月 30 日現在は 1,400 万ユーロ、規制上の VaR の平均は、2020 年度第 1 四半期の 1,140 万ユーロに対して、2020 年度第 2 四半期は 1,880 万ユーロ）。**ファイナンス事業**は、**顧客のために幅広い資金ソリューション**（引受、クラブ・ディール、相対ローン）を提供する能力によって、基礎収益が増加し 7 億 2,000 万ユーロとなりました（2019 年度第 2 四半期対比 5.8%増）。特に、**シンジケートローン**における実績は非常に好調でした。**クレディ・アグリコルの法人営業及び投資銀行部門**はこの事業における**市場シェアを拡大し**（2019 年 6 月末の 6.9%に対して 7.6%[16]）、この結果、**EMEA 圏のシンジケートローン市場で第 2 位**となりました。全体として、**商業銀行部門**の収益は 22.4%増加して 4 億 800 万ユーロとなりました。**ストラクチャード・ファイナンス**は経済活動の減速により、減収（10.2%減）となりました。また、「組成から販売まで」モデルに沿って、ファイナンス事業の直近 12 カ月間の平均直接支払比率は 39%となり、2019 年度第 2 四半期に比べ 5 ポイント低下しました。

最後に、**資産運用サービス部門**（CACEIS）は当四半期、**高水準のカストディー資産残高**（2020 年 6 月末は前年同月末比 35%増の 3 兆 8,730 億ユーロ）及び**資産管理残高**（前年同月末比 10%増の 2 兆 50 億ユーロ）を計上しました。これは**新規顧客の獲得**が市場の悪影響を補ったこと（カストディー資産 1,730 億ユーロ増、資産管理 360 億ユーロ増）に加えて、**KAS バンク及びサンタンデール・セキュリティーズ・サービシズを連結**（カストディー資産 8,260 億ユーロ増、資産管理 1,500 億ユーロ増）したことによります。

[15] *出所：リフィニティブ及びブルームバーグ*
[16] *出所：リフィニティブ T78*

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の業績分析

アセット・ギャザリング部門

アセット・ギャザリング（AG）部門は、当第 2 四半期に前年同期比 11.0%増の 5 億 5,100 万ユーロの基礎純利益グループ帰属分を計上しました。同部門は、当四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 50%、コーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 28%に寄与しました。

アセット・ギャザリング（AG）部門は、当上半期に前年同期比 4.4%減の 9 億 700 万ユーロの基礎純利益グループ帰属分を計上しました。

2020 年 6 月 30 日現在、アセット・ギャザリング部門に配分された資本は 100 億ユーロで、この内訳は、保険が 85 億ユーロ、資産運用が 11 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 5 億ユーロでした。アセット・ギャザリング部門のリスク・ウェイト資産は 409 億ユーロで、この内訳は、保険が 248 億ユーロ、資産運用が 111 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 50 億ユーロでした。

アセット・ギャザリング部門についてのみ、リスク・ウェイト資産が「Switch」保証の影響を控除し算出されています。これにより、クレディ・アグリコル S.A.グループは保険部門における健全性規則上のリスク・ウェイト資産を 220 億ユーロ [17] 節減しています。このことは、2020 年度第 2 四半期については、同部門の純利益に対して約 3,300 万ユーロのマイナス影響を与えています。

当上半期の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 21.4%となり、これに対して 2019 年度通期は 27.5%でした。

保険

基礎収益は 13.5%増加しました。これは特に当第 2 四半期におけるプラスの市場影響（1 億 4,000 万ユーロのプラス要因）によるものであり、2020 年度第 1 四半期のマイナスの市場影響を部分的に相殺しました。基礎費用は 4.1%増加しましたが、これは主にこの部門の成長を支えるための人員増によります。この結果、SRF を除いた当四半期の基礎コスト比率は、前年同期比 2.2 ポイント改善されて 23.8%となり、また、基礎営業総利益は前年同期比 16.8%増加しました。2020 年度第 1 四半期の税金費用は 4.6%増加して 1 億 5,200 万ユーロとなりました。保険部門の基礎純利益グループ帰属分は前年同期に比べ 20.6%増加しました。

当上半期の基礎収益は、第 1 四半期の市場影響を背景に、12 億 1,200 万ユーロとなり、前年同期比 2.7%の減収となりました。費用は 5.5%増加し、この結果当上半期のコスト比率は 2.7 ポイント増の 34.2%とやや悪化しました。基礎 GOI は 6.6%減少しました。最後に、当第 1 四半期の税金費用は、税引前利益の減少とフランスの税率引き下げにより、前年同期に比べ 20.7%減少しました。この結果、純利益グループ帰属分は 5 億 9,000 万ユーロとなり、前年同期に比べ 2.5%減と小幅の減益となりました。

資産運用

当四半期の基礎収益は、7.5%減の 6 億 700 万ユーロでした。運用収益（純額）は、主として市場環境により減少（7.7%減）しました。運用手数料収入（純額）は、市場の平均水準（前年度第 2 四半期に比べ低下）及び不利な構成比（商品／顧客）のマイナス影響を受けました。成功報酬収入は良好な水準を維持しました（3,400 万ユーロ、特に株式及び分散投資）。金融収益は、3 月末から 6 月末にかけての市場の回復により 12.0%増加しました（任意投資及びシードマネーのポートフォリオの時価評価に影響）。基礎費用は、変動報酬の調整とパイオニアの統合に関連する直近の IT 費用の相乗効果により、7.3%減の 3 億 2,500 万ユーロでした。基礎営業総利益は 7.1%減となり、SRF を除いた基礎コスト比率はほぼ前年と同水準の 53.5%（0.1 ポイント増）となりました。特にアジアにおけるアムンディの合弁会社からの利益で構成される持分法適用会社の寄与は、26.6%増加しました。当四半期の法人所得税は、9.7%減の 7,000 万ユーロでした。最後に、当四半期の基礎純利益グループ帰属分は 10.3%減の 1 億 4,600 万ユーロとなりました。

当上半期の収益は、市場の状況及び商品構成比の影響により、7.2%減少しました。費用は 4.6%減少しました。SRF を除いた基礎コスト比率は、当上半期に 1.5 ポイント悪化しましたが、54.9%と依然として非常に良好な水準を維持しています。GOI は 10.3%減少しました。持分法適用会社の純利益は、特にインドの合弁会社の寄与により、17.6%増加しました。最後に、純利益グループ帰属分は、13.9%減少して 2 億 7,400 万ユーロとなりました。

[17] *2020 年度第 1 四半期に行われた Switch の部分的解除を含む*

ウェルス・マネジメント

当第 2 四半期の基礎収益は、2019 年 6 月末から 2020 年 6 月末の間にウェルス・マネジメント資産が 3.6%減少したことに伴い、6.0%減少して 1 億 9,400 万ユーロとなりました。SRF を除いた基礎費用は、依然として抑制されており（3.7%減）、当第 2 四半期は 1 億 7,400 万ユーロとなりました。この結果、当四半期の SRF を除いた基礎コスト比率は、2.1 ポイント悪化して 89.9%となりました。基礎 GOI は 16.6%減少して、2,000 万ユーロとなりました。2020 年度第 2 四半期には、以前からの税務上の係争に関して税金の還付の適用を受け、また、スイスの州税率の引き下げの適用も受けたことから 300 万ユーロの税金収益が計上されました。これに対して、前年同期には 400 万ユーロの税金費用が計上されています。この結果、当四半期の基礎純利益グループ帰属分は、前年同期比 42.7%増の 1,900 万ユーロとなりました。

当上半期の基礎収益は前年同期比 0.2%増とほぼ同水準となり、また、費用も同 0.3%減と微減となりました。この結果、GOI は 5.9%増加し、税金でも、上記の影響の恩恵を受けて 100 万ユーロの収益を計上しました。このため、当上半期の純利益グループ帰属分は 62.9%増加して 4,400 万ユーロとなりました。

リテール・バンキング部門

フランスのリテール・バンキング

当四半期の基礎収益は、3.6%減の 8 億 5,700 万ユーロと小幅の減収となりました。基礎収益は特に、環境の影響を非常に強く受けた事業による手数料収入の減少（3.0%減）及び主として評価額の影響により金利マージン（純額）が 4.0%減少したことの影響を受けました。LCL の継続的な業務効率化方針が奏功し、SRF を除いた基礎費用は、当四半期に 5.1%減の 5 億 4,400 万ユーロとなり、この結果、SRF を除いた基礎コスト比率は 1.0 ポイント改善されて 63.4%となりました。このため、基礎営業総利益の減少は抑制され、2.7%減の 3 億 600 万ユーロとなりました。当四半期の引当は、大幅に増加し（2.3 倍）、1 億 1,700 万ユーロになりました。この増加には特に、正常債権に対する引当に関連した 2,900 万ユーロが含まれています。この結果、当上半期の残高に対する年換算のリスク関連費用は 33 ベーシス・ポイントとなりました。最後に、当四半期の基礎純利益グループ帰属分は 25.3%減の 1 億 2,800 万ユーロでした。

当上半期の収益は、前年同期とほぼ同水準の 17 億 4,600 万ユーロでした。SRF を除いた基礎費用は、特に外部費用の改善の継続により 3.2%減少し、この結果、コスト比率は 1.7 ポイント改善して 64.6%となりました。これにより営業総利益は 2.6%増加しましたが、その大部分は引当が大幅に増加（2.3 倍）して 2 億 1,800 万ユーロとなったことにより相殺されました。全体として、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 21.7%減少しました。

LCL の当上半期の基礎 RONE（調整株主資本利益率）は、前年同期の 10.8%に対し、7.8%でした。

国際リテール・バンキング

当四半期の国際リテール・バンキングの収益は、10.5%減の 6 億 4,000 万ユーロとなりました。SRF を除いた基礎費用は、抑制はされていましたが（4.0%減）、4 億 1,800 万ユーロとなり、また、SRF への追加拠出が 900 万ユーロありました。この結果、営業総利益は 22.0%減少しました。当四半期の引当は 2.4 倍の 1 億 4,600 万ユーロとなりました（特に、正常債権に対する引当によります）。全体では、当四半期の国際リテール・バンキングの純利益グループ帰属分は、前年同期比 62.8%減の 3,700 万ユーロとなりました。

当上半期の基礎収益は 5.8%減の 13 億 1,000 万ユーロでした。SRF を除いた基礎営業費用は 1.9%減少して 8 億 4,000 万ユーロとなり、基礎コスト比率は 2.6 ポイント悪化して 64.7%となりました。当上半期の引当は 82.3%増の 3 億 1,400 万ユーロでした。この結果、当上半期の純利益グループ帰属分は 1 億 7,800 万ユーロとなりました。

イタリア

当第 2 四半期の収益は、ロックダウン中の活動の低下により、10.8%減少して 4 億 3,100 万ユーロとなりました。金利マージン（純額）は条件再交渉の影響と金利低下の影響を受け、変動金利ローンの残高と新規ローン組成の両方に影響を及ぼしました。当四半期の手数料収入も減少しました（15%減）。SRF を除いた基礎費用は、特に外部費用と移動関連費用の節減により 2.3%減少しました。費用の減少は収益の減少ほど急速ではなかったため、SRF を除いた基礎コスト比率は 67.0%となり、前年に比べ 5.8 ポイント悪化しました。引当は、正常債権に対する引当（3,000 万ユーロ）、及び不良債権処分に備えるための確認されているリスクに対する引当の著しい増加の結果、2.4 倍の 1 億 4,600 万ユーロに達しました。この結果、残高に対する当上半期の信用リスク関連費用（年換算値）は、102 ベーシス・ポイントでした。不良債権比率は、当四半期に 7.4%へと改善（前年同月末比 0.6 ポイント低下）し、不良債権引当率は 2.5 ポイント上昇して 62.9%となりました。また、当四半期の特筆すべき事項として、建物の売却による税引前で 6,500 万ユーロのキャピタル・ゲイン（損益計算書上は他の資産に関する純利益として計上）がありました。

当上半期の収益は 6.4%減の 8 億 7,500 万ユーロとなりました。SRF を除いた営業費用は 2.1%の減少にとどまり、その結果、SRF を除いた基礎コスト比率は前年同期比 2.9 ポイント上昇の 64.8%に悪化しました。最後に、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 41.8%減少しました。

CA イタリアの当上半期の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は、前年同期の 9.3%に対し、4.2%でした。

イタリアのクレディ・アグリコル・グループ

当グループのイタリアでの業績は、リスク関連費用の増加を理由に、当上半期は前年同期比 25%減の 2 億 5,700 万ユーロでした。

IRB（イタリアを除く）

当四半期の基礎収益は、主に金利収入（純額）がエジプト、ポーランド、ウクライナ及びモロッコでの主要金利低下による影響を受けたことにより、また、手数料収入が営業活動の大幅な低下による影響を受けたことから、前年同期に比べ減少しました（9.8%減）。当四半期の SRF を除いた基礎費用も 7.7%減少し、CA エジプト（5%増）を除く全ての子会社で減少しました。この結果、当四半期のイタリアを除く IRB における SRF を除いた基礎コスト比率は、1.5 ポイント減の 62.1%と小幅の低下となりました。基礎営業総利益は 13.1%減少し、当第 2 四半期の引当は 5,200 万ユーロに増加しました（2.3 倍）。最後に、基礎純利益グループ帰属分は 70.3%減と大幅に減少して 1,200 万ユーロとなりました。

国別：

- CA エジプト[18]：金利の低下の悪影響を受けて基礎収益が減少し（13%減）、当四半期の基礎営業総利益は前年同期比 16%減少しました。リスク・プロフィールは、低水準の NPL レシオ（2.6%）と高水準の不良債権引当率（169%）により依然として良好でした。

- CA ポーランド[18]：当四半期の基礎収益は基準金利の低下の悪影響を受け減少（10%減）しました。この減収の影響は、費用の 10%の減少により部分的に相殺されました。基礎営業総利益が 9%減少し、引当が増加した結果、純利益グループ帰属分が減少し、当上半期では 400 万ユーロの赤字となりました。

- CA ウクライナ[18]：当四半期の基礎収益は、主として基準金利の低下に加えて、手数料収入が減少（30%減）したことから、減少しました（11%減）。NPL レシオは 4.4%となり、不良債権引当率は 180%と高水準でした。

- クレディ・デュ・モロッコ[18]：当四半期の収益は小幅の減少（3%減）となりましたが、費用は引き続き抑制されています（1%増）。引当は引き続き健全性を維持し、不良債権引当率は 96%となりました。

当上半期の収益は 4.6%減少して 4 億 3,500 万ユーロとなりました。SRF を除いた基礎費用の減少は 1.4%にとどまり、この結果コスト比率は 62.7%と 2.0 ポイント悪化しました。全体として、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 56.4%減少しました。

当上半期のイタリアを除く IRB の基礎 RONE（調整株主資本利益率）は、前年同期の 19.3%に対し、12.1%でした。

国際リテール・バンキング部門は、当四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 4%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 13%に寄与しました。

リテール・バンキング部門全体では、当四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 15%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 29%に寄与しました。

2020 年 6 月 30 日現在、この部門に配分された資本は 91 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 51 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 39 億ユーロでした。リスク・ウェイト資産は 955 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 541 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 413 億ユーロでした。

[18] *外国為替の影響を除く*

専門金融サービス部門

2020 年度第 2 四半期に、専門金融サービス部門の**純利益グループ帰属分**は、特に事業の減速を背景とした**収益**の減少及び**引当**の増加により、前年同期比 27.9%減少して 1 億 4,900 万ユーロとなりました。

2020 年度上半期の**純利益グループ帰属分**は 35.7%減の 2 億 5,800 万ユーロでした。

同部門は、当上半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 12%、コーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 12%に寄与しました。

2020 年 6 月 30 日現在、専門金融サービス部門に**配分された資本**は 49 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 517 億ユーロでした。

同部門の当上半期の **RoNE**（調整株主資本利益率）は、10.1%となりました（これに対して 2019 年度は 16%）。

消費者金融

2020 年度第 2 四半期、CA コンシューマー・ファイナンスの**収益**は、特に衛生危機による活動の減速を背景に、合計で 4 億 8,500 万ユーロとなり、前年同期比減収となりました（保険収益の 1,900 万ユーロの減少を含め 12%減）。**SRF を除いた費用**は、厳格な費用管理が奏功して減少（7.1%減の 2 億 4,000 万ユーロ）し、**営業総利益**の減少（15.5%減）を限定しました。**コスト比率**は、2.6 ポイント低下して 49.5%となりました。**持分法適用会社**の寄与は、Wafasalaf における引当の増加（2,400 万ユーロ増）により減少（22.7%減）しました。CA コンシューマー・ファイナンスにおける**引当**は、85.1%増加しましたが、この増加のうち 37%は正常債権に対する引当に関連するものでした。アゴスとバンコ BPM の間で 2019 年に締結された商業契約の結果、CA コンシューマー・ファイナンスはイタリアにおける有利な税制の恩恵（Affrancamento、3,900 万ユーロ）を受け、基礎**税金**は前年同期に比べ減少しました（1 億 1,300 万ユーロ減）。この結果、CA コンシューマー・ファイナンスの**純利益グループ帰属分**は 1 億 3,100 万ユーロとなり、前年同期に比べ 23.3%減少しました。

当上半期の**収益**は前年同期比 8.1%減少し、**営業総利益**も同様に減少しました（14.1%減）。**SRF を除いた費用**は減少しましたが（1.8%減の 5 億 1,700 万ユーロ）、**コスト比率**は悪化しました（3.3 ポイント増の 51.5%）。**持分法適用会社**の寄与は減少し（15.4%減）、**引当**は増加しました（78.4%増の 3 億 8,200 万ユーロ）。この結果、**税金**の減少（7,300 万ユーロ減）はあったものの、当部門の基礎**純利益グループ帰属分**への寄与は 31.5%減少しました。

リースとファクタリング

2020 年度第 2 四半期の CAL&F の基礎**収益**は、特にファクタリングにおける危機中の活動の減速により、前年同期に比べ 10.4%減の 1 億 2,200 万ユーロとなりました（うち、ファクタリングは 29%減）。**SRF を除く基礎費用**も減少し（2.9%減の 6,900 万ユーロ）、基礎**営業総利益**の減少（22%減）を限定しました。SRF を除いた**コスト比率**は、4.4 ポイント悪化して 56.3%となりました。**引当**は増加（2.2 倍の 3,000 万ユーロ）しましたが、この増加のうち 79%は正常債権に対する引当に関連するものでした。全体として、**CAL&F の基礎純利益グループ帰属分**は、前年同期比 49.7%減の 1,800 万ユーロとなりました。

当上半期の基礎**収益**は、前年同期比 9.2%減少しました。一方、**SRF を除いた基礎費用**は同水準にとどまりました（0.9%減の 1 億 4,400 万ユーロ）。この結果、基礎**営業総利益**は 21.7%減少し、基礎**コスト比率**は悪化しました（4.8 ポイント増の 57.4%）。**引当**の増加（2.3 倍の 5,600 万ユーロ）もあり、基礎**純利益グループ帰属分**は減少しました（55.8%減の 3,000 万ユーロ）。

大口顧客部門

大口顧客部門の **2020 年度第 2 四半期**の**純利益グループ帰属分**は、活発な営業活動が奏功し基礎**営業総利益**が大幅に増加（26.7%増）したものの、ファイナンス事業における**引当**の著しい増加（8 倍増、増加の 47%は正常債権に対する引当に関連）により、前年同期に比べ 5.3%減の 4 億 3,600 万ユーロとなりました。

当上半期の基礎**純利益グループ帰属分**は、7%減益の 6 億 4,400 万ユーロでした。

同部門は、当上半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 30%、コーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 31%に寄与しました。

2020 年 6 月 30 日現在、大口顧客部門に**配分された資本**は 125 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 1,317 億ユーロでした。

同部門の当上半期の **RoNE**（調整株主資本利益率）は、10%となりました（これに対して 2019 年度は 12.7%）。

法人営業及び投資銀行部門

資本市場における顕著な実績により、**2020 年度第 2 四半期**の**基礎収益**は 20.3%増の 15 億ユーロとなり、基礎**営業総利益**も同様に増加しました（27.1%増の 8 億 200 万ユーロ）。資本市場及び投資銀行の基礎収益は、全ての部門からの力強い寄与があり、37.7%増収の 7 億 8,000 万ユーロとなりました（うち、資本市場は 44%増収）。ファイナンス事業の基礎収益も、ストラクチャード・ファイナンス（10.2%減収の 3 億 1,100 万ユーロ）が経済環境の悪影響を受けたにもかかわらず、商業銀行の顕著な実績（22.4%増収の 4 億 800 万ユーロ）により、増収（5.8%増収の 7 億 2,000 万ユーロ）になりました。**SRF を除いた基礎費用**は、ベース効果により前年同期比 3.4%増の 6 億 4,500 万ユーロとなり、コスト比率は 43%と引き続き抑制されています。**引当**の増加（5 倍）、特にファイナンス事業（8 倍、増加の 47%は正常債権に対する引当に関連）における引当の増加により、法人営業及び投資銀行部門の**純利益グループ帰属分**に対する寄与は 4.2%減少して 4 億ユーロとなりました。

当上半期の基礎**収益**は、前年同期比 12.9%増加し、一方、**SRF を除いた基礎費用**は小幅の増加（3.1%増）となりました。この結果、プラスの乖離効果（プラス 9.8 ポイント）により、基礎**営業総利益**は増加（20.6%増）し、基礎**コスト比率**（4.6 ポイント低下して 48.6%）は改善しました。最後に、当上半期における**引当**の増加（9.4 倍）により、当部門の**純利益グループ帰属分**への寄与は 7.4%減少して 5 億 8,500 万ユーロとなりました。

資産運用サービス

KAS バンク及びサンタンデール・セキュリティ・サービシズの連結の結果、**2020 年度第 2 四半期**の基礎**収益**は 23.9%増加して 2 億 8,800 万ユーロとなりました。一方、**SRF を除いた基礎費用**も 20%増の 2 億 700 万ユーロとなりました。基礎**営業総利益**はプラスの乖離効果（プラス 3.9 ポイント）の恩恵を受け、22.9%増の 7,400 万ユーロとなりました。SRF を除いた**コスト比率**は、2.4 ポイント改善して 71.9%となりました。基礎**純利益**は 24.4%増加しました。全体として、同部門の**純利益グループ帰属分**は、サンタンデールの非支配持分 1,700 万ユーロが発生した結果、前年同期比 15.7%減の 3,700 万ユーロとなりました。

当上半期の基礎**収益**は、前年同期比 26.3%増加しました。一方、**SRF を除いた基礎費用**は 22.4%増加しました。プラスの乖離効果（プラス 3.9 ポイント）により、基礎**営業総利益**は増加（31.9%増）し、基礎**コスト比率**（2.4 ポイント低下して 73.6%）は改善しました。この結果、基礎**純利益**は 43.6%増加しました。最終的には、同部門の**純利益グループ帰属分**への貢献は、非支配持分（2,900 万ユーロ）により 3.3%減少しました。

コーポレート・センター

コーポレート・センターのマイナス寄与に関する分析では、「構造的」寄与と他の項目に注目しました。「構造的」寄与には、以下の 3 つの事業が含まれます。

- クレディ・アグリコル S.A.が保有するコーポレート・センターの事業と役割。当第 2 四半期における寄与はマイナス 1 億 3,900 万ユーロでしたが、前年同期（マイナス 2 億 6,000 万ユーロ）と比較すると、借換えコストの低下による収益の改善並びに人件費及び旅費の減少により、著しく改善しました。
- CACIF（プライベート・エクイティ）及び CA イモビリエなどの中核事業を構成しない部門。これらの 2020 年度第 2 四半期における寄与はマイナス 2,600 万ユーロとなり、プライベート・エクイティ企業の評価額の悪化の影響により前年同期（プラス 1,500 万ユーロ）に比べ減少しました。
- 当グループのサポート機能：当四半期は、前年同期（プラス 1,600 万ユーロ）と比べて若干の減少となる 1,000 万ユーロのプラス影響となりました。ただし、その寄与は、サービスが当グループの他の事業部門に再度請求されるため、12 カ月間で見ると事実上ゼロです。

「他の項目」は当四半期にマイナス 3,900 万ユーロの寄与を計上しましたが、これに対して前年同期の寄与はプラス 3,800 万ユーロでした。このマイナスの差異は、グループ内取引に対する市場の好転の影響によるものです。

当上半期のコーポレート・センター部門による寄与はマイナス 3 億 7,500 万ユーロとなり、前年同期に比べ 1 億 300 万ユーロ改善しました。構造的部分は、特にコーポレート企業であるクレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業及び機能（1 億 900 万ユーロの改善）に関連して著しく改善しました（5,400 万ユーロの改善）。コーポレート・センター部門の他の項目の当上半期の寄与は 7,300 万ユーロとなり、4,900 万ユーロ改善しました。
2020 年 6 月 30 日現在のリスク・ウェイト資産は 271 億ユーロで、配分された資本は 26 億ユーロでした。

*　　*

*

フィリップ・ブラサック最高経営責任者は、2020 年度第 2 四半期のクレディ・アグリコル S.A.の業績と事業活動について「*われわれは大きな混乱が生じた四半期を無事に乗り切りました。このかつてない衛生危機は、自然と経済に影響をもたらしました。われわれは、フランスの主要銀行として、当グループの顧客に大規模な支援を提供しています。われわれの業績は好調です。当上半期、営業総利益は増加し、CET1 レシオは大幅に上昇し、リスクに対する引当は欧州で最高水準にあります。われわれはこれらを回復のために活用しています*」とコメントしました。

財務面の堅牢性

クレディ・アグリコル・グループ

当四半期、クレディ・アグリコル・グループは高水準の財務健全性を継続的に維持し、段階適用の普通株式ティア 1（CET1）レシオは、2020 年 3 月末から 0.6 ポイント上昇の 16.1%となり、2022 年グループ・プロジェクトの目標を現時点で達成しました。全面適用ベースのレシオは 15.8%でした。この増加は主に、2020 年上半期の 1 株当たり配当金 0.24 ユーロを含む利益剰余金の影響プラス 20 ベーシス・ポイント、特に IFRS 第 9 号の適用（プラス 27 ベーシスポイント）に関連した手法及び規制上の影響（プラス 59 ベーシスポイント）、追加の SME 係数（プラス 24 ベーシスポイント）ならびに未実現損益（プラス 11 ベーシスポイント）によるものです。また、当四半期のリスク・ウェイト資産の増加により、CET1 レシオにマイナス 21 ベーシス・ポイントの好ましくない影響が生じました。実際に、各部門のリスク・ウェイト資産は 26 億ユーロ増加し、特にリテール・バンキング部門では LCL で 14 億ユーロ、地域銀行で 17 億ユーロ増加しています（有機的成長 76 億ユーロ）。この増加は SME の追加的係数の影響マイナス 60 億ユーロ及び保険会社に対する持分の増加の影響 19 億ユーロによって部分的に相殺されました。国家保証融資の 2 カ月の待期期間を除外した場合、リスク・ウェイト資産は 5,650 億ユーロとなり、当グループの段階適用の CET1 レシオは 16.3%となります。

最後に、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と当グループの 8.9%という SREP 要件の間で 7.2 ポイント（2020 年 3 月 31 日時点では 6.6 ポイント）という大きなバッファーを達成しました。

段階適用レバレッジ・レシオは、2020 年 3 月末時点と比べ同水準の 5.3%でした。段階適用のティア 1 レシオは 17.0%、段階適用の総資本比率は 19.7%、そして当四半期中の平均段階適用レバレッジ・レシオは 5.2%でした。

TLAC

金融安定理事会（FSB）は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）のベイルインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力（TLAC）レシオは、破綻処理前及びその最中に G-SIBs がベイルインと資本増強の充分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行（したがってクレディ・アグリコル・グループ）に適用されます。

損失を吸収する要素を構成するのは、エクイティ、劣後債、及び破綻処理当局がベイルインを適用することができる債券です。

TLAC レシオの要件は、CRR2 *を介して*EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となっています。クレディ・アグリコル・グループは同日以降、常に以下の要件に従わなければなりません。

- リスク・ウェイト資産（RWA）の 16%を超える TLAC レシオと、CRD5 に従った総合資本バッファー要件（クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー、及びカウンターシクリカル・バッファー）。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、19.5%超の TLAC レシオ（及びカウンターシクリカル・バッファー）に従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー（LRE）の 6%超となる TLAC レシオ。

2022 年 1 月 1 日以降は、最低 TLAC レシオ要件が、リスク・ウェイト資産の 18%プラス当該日時点の総合バッファー要件、及び 6.75%のレバレッジ・レシオ・エクスポージャーに引き上げられます。

2020 年 6 月 30 日時点の**クレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオ**は、**RWA の 23.8%及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 7.5%でした（適格優先シニア債を除く）**。TLAC レシオは、TLAC 債券発行の大幅な増加を背景に、2020 年度第 1 四半期に比べ、120 ベーシス・ポイント上昇しました。これは、2020 年 6 月 30 日時点で適格優先シニア債に RWA の最大 2.5%を含めることができるという事実にもかかわらず、RWA の 19.5%という義務的数値（CRR2／CRD5 に従うと、2020 年 6 月 30 日時点で 0.01%のカウンターシクリカル・バッファーが加わります）と、レバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 6%をそれぞれ上回りました。
TLAC レシオの達成は、**ホールセール市場での 2020 年度の約 60～80 億ユーロ規模の TLAC 債券発行プログラム**によって支えられています。2020 年 6 月 30 日時点で 72 億ユーロ相当が市場で発行されました。TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、232 億ユーロでした。

MREL

MREL（自己資本及び適格債務にかかわる最低要件）レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」（BRRD）に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU 全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。

国家破綻処理当局の ACPR は、「シングル・ポイント・オブ・エントリー」（SPE）破綻処理戦略がフランスの銀行システムに最適と考えています。クレディ・アグリコル・グループは、SPE モデルを採用しています。クレディ・アグリコルの破綻処理の場合には、クレディ・アグリコル S.A.が中央機関としてシングル・ポイント・オブ・エントリーとなります。グループ内に存在する連帯メカニズムを考慮すると、クレディ・アグリコルのネットワークのメンバーまたはその関連会社は、個別に破綻処理を行うことは不可能です。

MREL レシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために利用できなければならない自己資本と適格債務の最低要件に相当します。これは、金融機関の負債総額と自己資本の（一定の慎重な調整後）比率（TLOF[19]）として、又はリスク・ウェイト資産（RWA）として表示される自己資本と適格債務の金額として計算されます。規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債（満期まで 1 年以上のもの）は、MREL レシオの分子として適格です。

2020 年に、単一破綻処理委員会（SRB）はクレディ・アグリコル・グループに連結 MREL 要件の改訂及び新規の劣後 MREL 要件を通知しました。これらはすでに効力が発生し、当グループはその時点から充足しています。これらの要件は破綻処理当局によって定期的に見直され、欧州の規制枠組みの変更（すなわち、BRRD2）が反映されます。

クレディ・アグリコル・グループの目標は、2022 年末までに RWA の 24～25%の劣後 MREL（適格優先シニア債を除く）を達成し、劣後 MREL を TLOF の 8%以上に維持することです。この水準にあれば、優先シニア債へのベイルイン適用前に（破綻処理当局の決定を条件に）単一破綻処理基金に対してリコースでき、優先シニア債の投資家を保護する新たなレイヤーを創出します。

2020 年 6 月 30 日現在、**クレディ・アグリコル・グループの推定 MREL レシオは TLOF の 11%となり、適格優先シニア債を除いた場合、このレシオは 8.2%となります。**リスク・ウェイト資産の比率で表示されるクレディ・アグリコル・グループの推定 MREL レシオは、2020 年 6 月末時点でおよそ **32%**でした。**これは、適格優先シニア債を除くと 23.8%でした。**

最大分配可能額（MDA）トリガー

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで（CRD4）、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが確立されました。最大分配可能額（MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額）の原則は、分配が総合資本バッファー要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDA トリガーまでの距離は、CET1 資本、ティア 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。2020 年 3 月 12 日以降の COVID-19 危機の影響を考慮して、欧州中央銀行は、CRD5 の第 104a 条適用の発効日を先送りし、追加のピラー2 要件（P2R）を満たすために自らの監督下でティア 1 とティア 2 の資本を使用することを金融機関に認めました。
全体では、P2R は現在、最低限である 75%の CET1 資本としてのものを含めて 75%ティア 1 資本によって満たすことができます。したがって、クレディ・アグリコル S.A.とクレディ・アグリコル・グループの CET1 要件は、2020 年度第 1 四半期から 66 ベーシス・ポイント減少しました。

クレディ・アグリコル・グループは、2020 年 6 月 30 日時点で **MDA トリガーを 636 ベーシス・ポイント（CET1 資本の 360 億ユーロ）上回る**バッファーとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.は、2020 年 6 月 30 日時点で **MDA トリガーを 382 ベーシス・ポイント（CET1 資本の 130 億ユーロ）上回るバッファー**となりました。

[19] *TLOF – デリバティブを相殺した、慎重な調整後のバランスシート上の負債総額及び自己資本*

クレディ・アグリコル S.A.

2020 年 6 月末時点のクレディ・アグリコル S.A.は高水準のソルベンシーを維持し、**段階適用の普通株式ティア 1（CET1）レシオは 2020 年 3 月末から 0.6 ポイント上昇して 12.0%**となっています。**全面適用ベースのレシオは 11.7%でした。**当四半期には、CET1 レシオは 27 ベーシス・ポイントのプラスの影響を発生させた表示実績、19 ベーシス・ポイントのプラス影響を発生させた未実現損益に加えて、特に IFRS 第 9 号の段階適用のプラス影響 25 ベーシス・ポイントを含む手法及び規制の影響プラス 46 ベーシス・ポイント（IFRS 第 9 号の初度適用の影響及び健全な債権残高に関する引当金の純計上費用の一部の無効化を承認する措置）、追加の SME 係数の影響（SME 支援係数の拡大及び 250 万ユーロの基準値を超えたエクスポージャーに対する新たな係数 0.85 の導入）プラス 9 ベーシス・ポイント、並びに、健全性評価影響（計算における市場のボラティリティの影響を限定するための累積係数に関連する 6 月 30 日より前に行われた EBA による採択）プラス 7 ベーシス・ポイントの恩恵を受けました。ソフトウェアに関する措置は、2020 年 6 月 30 日現在で適用されていません。この影響には、リスク・ウェイト資産を 15 億ユーロ減少させる CACIB における最適化も含まれます。ソルベンシー比率には、当四半期については 1 株当たり 0.16 ユーロ、当上半期については 1 株当たり 0.24 ユーロの配当金の引当が含まれ、これは AT1 のクーポン利息と合わせて 15 ベーシス・ポイントのマイナス影響を及ぼしました。ソルベンシー比率には、主にサバデル・アセット・マネジメントの買収による 9 ベーシス・ポイントのマイナス影響に関連する、「M&A 及びその他」に係る 16 ベーシス・ポイントのマイナス影響が含まれています。

事業部門の成長が当四半期のレシオに与えた影響は中立的でした。最後に、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と 7.9%という SREP 要件の間で 4.1 ポイント（2020 年 3 月 31 日時点では 3.5 ポイント）という大きなバッファーを達成しました。

2020 年 6 月末時点の段階適用レバレッジ・レシオは、2020 年 3 月末時点と比べ同水準の 3.9%でした。当四半期中の平均段階適用レバレッジ・レシオは 3.8%、段階適用のティア 1 レシオは 13.5%、そして段階適用の総資本比率は 17.6%でした。

リスク・ウェイト資産は、2020 年 6 月末には 3,470 億ユーロとなり、これに対して 3 月末は 3,480 億ユーロで、当四半期中の減少は 0.2%と限定的でした。事業の成長がリスク・ウェイト資産に与えた影響は全体としては中立的で、主に国家保証融資の導入に関連した LCL での増加によるリテール・バンキング部門の増加 27 億ユーロが、専門金融サービス部門における減少 21 億ユーロによって部分的に相殺され、全体では 12 億ユーロ増加しました。保険事業の持分法による評価額の増加はリスク・ウェイト資産を 21 億ユーロ増加させる効果を持ち、一方で、規制の影響は減少効果を持ち（SME 支援係数の場合は 26 億ユーロ減）、また、クレディ・アグリコル CIB における手法の影響も同様に減少効果を持ちました（15 億ユーロ減少）。国家保証融資の 2 カ月の待期期間のリスク・ウェイト資産の 6 月の試算値は、3 月末に比べ 26 億ユーロ減少しました。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、当グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクション（次の表に示される）の間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これは、保険事業が独自の制約に従って管理されているため、バンキング部門の範囲に関係します。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2020 年 6 月末時点で総額 620 億ユーロの相殺が行われました。同様に、960 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、これまでに除外されていました。キャッシュ・バランスシートを確立するための他の相殺計算は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門が保有する非流動証券に関係し、2020 年 6 月末時点で総額 1,840 億ユーロとなりました。

キャッシュ・バランスシートを作成するために CDC に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額（2020 年 6 月末時点で 620 億ユーロ）は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中央銀行の資金供給オペについては、TLTRO（長期資金供給オペ）に関連する残高は、「中長期市場資金」に含まれることにご注意ください。実際に、TLTRO II 及び TLTRO III のオペは、ECB の裁量による早期回収を認めていません。4 年及び 3 年という契約満期を考えると、これは、流動性リスク条件の点で担保付き債券と同一の長期保証資金供給に相当すると思われます。

中長期レポも「中長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、われわれと商業的関係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2020 年 6 月 30 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 4,870 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 2,410 億ユーロ**でした（2020 年 3 月時点と比べて 1,090 億ユーロ増、2019 年 6 月時点と比べて 1,250 億ユーロ増）。

COVID-19 による衛生危機の状況下で、当グループは顧客を支援するために、特に国家保証融資の実行及びローンの期限延長を通じて、多大な努力を払いました。顧客の需要に応え、優位性のある金利の状況からの恩恵を得るために、当グループは 2020 年 6 月に 900 億ユーロの欧州中央銀行の T-LTRO III 中長期資金供給取引に再度参加し、安定資金の水準を引き上げました。

加えて、当グループは当四半期において、フランスにおけるファイナンス事業及びリテール・バンキング部門で、国家保証融資の流動性の還流などから発生した資金流入の大幅増の恩恵を受けました。実際に、当四半期には、資金流入が 470 億ユーロ増加した一方で、ローンの増加は 160 億ユーロとなり、このことも安定資金の増加に寄与しました。

安定資金ポジションとして知られるこの 2,410 億ユーロの超過額により、当グループは、長期資産と安定的な負債（顧客、有形資産と無形資産、長期資金、自己資本）によって生じる LCL の赤字を賄うことができます。これは、1,000 億ユーロ超という中期計画を達成するものです。**長期の利用可能資金に対する安定資金の比率**は、前四半期比 9.5 ポイント増の 121.6%でした。

また、流動性超過及び中央銀行の流動性枠（特に LTRO）の引出しの当四半期における段階的返済により、当グループは 2020 年 6 月 30 日現在で短期貸出ポジション（中央銀行預け金が短期負債を超過）となりました。

中長期市場資金は 2020 年 6 月 30 日現在で 3,110 億ユーロになり、2020 年 3 月末から 830 億ユーロ増加しました。

これには、1,840 億ユーロの担保付きシニア債、840 億ユーロの優先シニア債、240 億ユーロの非優先シニア債、190 億ユーロのティア 2 債券が含まれます。

担保付きシニア債の大幅な増加は、当グループが欧州中央銀行の T-LTRO 中長期資金供給取引に参加したこと（TLTRO III の引出し及び TLTRO II の部分返済）によります。優先シニア債の減少は、当第 2 四半期中に実施された負債管理活動によります。

2020 年 6 月 30 日現在の当グループの流動性準備金は、ヘアーカット後の時価で 4,050 億ユーロとなり、2020 年 3 月末現在からは 670 億ユーロ、2019 年 6 月 30 日現在からは 1,280 億ユーロ、それぞれ増加しました。これは短期負債の 3 倍以上をカバーしています。

COVID-19 衛生危機の状況下で、当グループは担保を動員して流動性準備金を積み増す能力を力強く示しました。同時に、4 月に実施された欧州中央銀行による担保の緩和措置も、当グループの中央銀行に対する購買力の増強に役立ちました。

中央銀行預け金の増加は、著しい流動性超過を置き換えた結果でした。当グループの資産担保率の上昇は、中央銀行からの引出しに沿ったものです。

2020 年 6 月 30 日現在、12 カ月間の平均値として算出された LCR レシオの分子（HQLA 証券のポートフォリオ、現金及び中央銀行預け金を含み準備預金を除く）は、クレディ・アグリコル・グループについては 2,562 億ユーロ、クレディ・アグリコル S.A.については 2,244 億ユーロでした。12 カ月間の平均値として算出された LCR レシオの分母（純キャッシュ・アウトフローを表す）は、クレディ・アグリコル・グループについては 1,928 億ユーロ、クレディ・アグリコル S.A.については 1,669 億ユーロでした。

クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の 12 カ月間の平均 LCR レシオは、2020 年 6 月末時点でそれぞれ 132.9%と 134.4%でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回っています。信用機関は、2018 年 1 月 1 日から 100%に設定されたこのレシオの基準値を条件付けられます。

COVID-19 による衛生危機の状況下でのクレディ・アグリコル・グループ及びクレディ・アグリコル S.A.の LCR レシオの水準の上昇は、中央銀行から T-LTRO III の引出しを使用したことに沿ったものでした。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も中長期資金供給について慎重な方針に従います。

当グループの主要発行体は 2020 年 6 月 30 日現在、中・長期債によって市場で 218 億ユーロ相当額を調達し、このうちの 52%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。

更に、国内機関と国際機関から 33 億ユーロ規模の借入も行われ、2020 年 6 月末現在でクレディ・アグリコル・グループのリテール・バンキング・ネットワーク（地域銀行、LCL、CA イタリア）と他の外部ネットワークで調達されました。

また、クレディ・アグリコル・アシュアランス（CAA）がグループ内劣後債の借換えのために、7 月に 10 年物ティア 2 債券 10 億ユーロを発行したことも特筆される事項です。

2020 年 7 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.は当年度の 120 億ユーロの中・長期市場資金調達プログラムの 96%を完了しました。当行は 115 億ユーロ相当額[20]を調達し、このうち 52 億ユーロ相当額が非優先シニア債、22 億ユーロ相当額がティア 2 債券、41 億ユーロ相当額が優先シニア債と担保付シニア債でした。

非優先シニア債及びティア 2 債券の発行目標は 60 億～80 億ユーロ相当額に改訂され、当初の目標額 50 億～60 億ユーロから増額されました。

2020 年 6 月に、クレディ・アグリコル S.A.はユーロ建て及び英ポンド建ての 11 種の債券の一部買戻し並びに米ドル建ての 4 種類の債券の一部買戻しを 34 億ユーロ相当で完了しました。この買戻しの目的は、クレディ・アグリコル S.A.の負債構造及び債券管理を現在及び将来の規制に照らして最適化し、投資家に対象となった債券における流動性を提供することでした。

[20] *買戻し及び部分返済控除前の総額*

企業の社会的・環境的責任

社会的責任

クレディ・アグリコル S.A.グループは、企業の意思決定機関における女性参画度に関する SBF120 構成企業のランキングで上位 50 社入りを果たしました。クレディ・アグリコル S.A.グループはこのランキングで著しく上昇し、2015 年の 90 位から順位を 46 上げて 2019 年には 44 位となりました。この年次ランキングは、女性を意思決定機関に参加させること及び職場における男女の平等を促進することに対するフランスの大企業 120 社のコミットメントにハイライトを当てています。この結果は、当グループが 4 年前に採択した積極政策を反映したものです。この政策は特にクレディ・アグリコル S.A.グループの経営執行委員会の意思決定機関、及び当グループの 11 事業部門の最高意思決定機関の全てにおける女性の数の著しい増加をもたらしました。当グループは、2022 年までに女性がグループ企業の最高意思決定機関の 30%を構成することを目標としています。

2020 年 4 月 8 日、COVID-19 によって引き起こされた衛生危機を背景に、クレディ・アグリコルは高齢者を保護し、高齢者が近親者と連絡を取ることを可能にするために必要な手段をまかなう資金を調達する連帯基金を創設しました。この 2,000 万ユーロの基金によって、2020 年 6 月末時点で、フランス全土の 50 万人近くの高齢者がクレディ・アグリコルからの支援を受けました。

気候変動ファイナンス

クレディ・アグリコルは、非財務業績の推進力となる新しい計画を策定しました。この計画は、クレディ・アグリコル・グループを対象範囲とした非財務報告プラットフォームの導入と、分析及び当グループの大企業顧客との対話に使用するエネルギー転換格付ツールの導入という 2 つの主要プロジェクトで構成されています。この計画はまた、当グループが 2021 年の欧州規制要件を満たすためにも役立っています。

アムンディはユーロ圏株式インデックス・ファンドの運用会社に選定されました。このファンドは気候変動に関するパリ協定に整合するもので、アムンディは気候変動問題を推進するための史上初の取組みを開始しているパリ証券取引所の 12 社の機関投資家に代わって、これを運用することになります。この投資ソリューションでは、IPCC の 1.5°C シナリオに沿って、年間で少なくとも 7%の炭素集約度の削減を実現することが見込まれています。これは将来の「パリ協定適合ベンチマーク」における EU ラベルを取得するために十分に適格な初の投資ソリューションです。このインデックスは、Science Based Targets イニシアティブによって定義された目標のいずれも設定していない企業を徐々に除外して運用されます。そのため、この投資ソリューションは、発行体が転換に着手することを奨励します。

**IPCC — 気候変動に関する政府間パネルには、全ての国連加盟国が参加できます。*

Technique Solaire は、1 億 1,100 万ユーロの資金調達活動を開始し、Unifergie（クレディ・アグリコル・リーシング・アンド・ファクタリングの子会社）及び Crédit Agricole de la Touraine et du Poitou に参加を求めました。これらの活動には、第 1 に、既存の 120 カ所の太陽光発電所に関する資金調達（いわゆる、すでに運営されている資産に関連する「ブラウンフィールド」資金調達）、第 2 に、54 メガワットの電力のプロジェクト・ポートフォリオに関する資金調達（いわゆる、新規の建設プロジェクトに関連する「グリーンフィールド」資金調達）に加え、この顧客がすでに開始している 81 メガワットのポートフォリオに関する資金調達が含まれます。合計すると、これらの新規設置によりフランスの 23 県で 2 万 4,000 世帯の年間消費量に相当する電力が発電されます。

非財務業績

グラミン・クレディ・アグリコル基金は、財務的及び非財務的評価について報告する、初のインパクトレポートを発行しました。同基金は、30 のクレディ・アグリコルの地域銀行とグループ会社との協力を通じて社会的インパクトを拡大してきました。21 の地域銀行、スキル・ボランティア・プログラム及び革新的な協力体制を結集したマイクロ・ファイナンス基金を使用して、同基金は約 40 カ国におけるグループによる金融包摂への影響力を強めています。*詳細については、http://impact-report.gca- foundation.org/*

生物多様性

クレディ・アグリコルの登記上のオフィスは、International Biodiversity & Property Council（IBPC）が認証し、業務に使用されている拠点が生物多様性に配慮していることを認める BiodiverCity® Life ラベルを取得しました。クレディ・アグリコル・イモビリエの業務チーム及びクレディ・アグリコル S.A.の CSR 管理チームは、2 年近くにわたって、拠点の生態学上のポテンシャルを評価し、デロイトによる規則順守監査を経てラベル認証を受けました。エバーグリーンは、使用者の幸福、天然資源の管理及び生物多様性の進展を含む、環境保全に対する総合的な配慮の成果です。

付属資料 1 ー 特殊要因（クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.）

クレディ・アグリコル・グループ ー 特殊要因(2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期、2020 年度上半期と 2019 年度上半期)

€m	Q2-20		Q2-19		H1-20		H1-19	
	Gross impact*	Impact on net income	Gross impact*	Impact on net income	Gross impact*	Impact on net income	Gross impact*	Impact on net income
DVA (LC)	(7)	(5)	(5)	(3)	(26)	(19)	(12)	(9)
Loan portfolio hedges (LC)	(75)	(51)	(8)	(6)	48	32	(27)	(20)
Home Purchase Savings Plans (LCL)	(4)	(3)	(3)	(2)	(15)	(10)	(11)	(7)
Home Purchase Savings Plans (CC)	(16)	(11)	(15)	(10)	(46)	(31)	(28)	(18)
Home Purchase Savings Plans (RB)	(58)	(40)	(19)	(13)	(133)	(90)	(98)	(64)
Liability management upfront payment (CC)	(41)	(28)	-	-	(41)	(28)	-	-
Support to insured clients Covid-19 (AG)	(2)	(1)	-	-	(2)	(1)	-	-
Support to insured clients Covid-19 (AG)	(143)	(97)	-	-	(143)	(97)	-	-
Support to insured clients Covid-19 (RB)	(94)	(64)	-	-	(94)	(64)	-	-
Total impact on revenues	**(441)**	**(300)**	**(49)**	**(33)**	**(452)**	**(309)**	**(175)**	**(118)**
Covid-19 donation (AG)	-	-	-	-	(38)	(38)	-	-
Covid-19 donation (IRB)	-	-	-	-	(8)	(4)	-	-
Covid-19 donation (CC)	-	-	-	-	(10)	(10)	-	-
Covid-19 donation (RB)	-	-	-	-	(10)	(10)	-	-
S3 / Kas Bank integration costs (LC)	(5)	(2)	-	-	(9)	(4)	-	-
Total impact on operating expenses	**(5)**	**(2)**	**-**	**-**	**(75)**	**(67)**	**-**	**-**
Triggering of the Switch2 (AG)	65	44	-	-	65	44	-	-
Triggering of the Switch2 (RB)	(65)	(44)	-	-	(65)	(44)	-	-
Total impact on cost of risk	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**
Total impact of specific items	**(445)**	**(302)**	**(49)**	**(33)**	**(527)**	**(376)**	**(175)**	**(118)**
Asset gathering	**(77)**	**(53)**	**-**	**-**	**(116)**	**(91)**	**-**	**-**
French Retail banking	**(224)**	**(152)**	**(22)**	**(14)**	**(320)**	**(221)**	**(108)**	**(71)**
International Retail banking	**-**	**-**		**-**	**(8)**	**(4)**	**-**	**-**
Specialised financial services	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**	**-**
Large customers	**(86)**	**(58)**	**(12)**	**(9)**	**13**	**9**	**(39)**	**(29)**
Corporate centre	**(58)**	**(39)**	**(15)**	**(10)**	**(97)**	**(69)**	**(28)**	**(18)**

** Impact before tax and before minority interests*

クレディ・アグリコル S.A. ― 特殊要因(2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期、2020 年度上半期と 2019 年度上半期)

€m	Q2-20		Q2-19		H1-20		H1-19	
	Gross impact*	Impact on net income	Gross impact*	Impact on net income	€m		Gross impact*	Impact on net income
DVA (LC)	(7)	(5)	(5)	(3)	(26)	(19)	(12)	(9)
Loan portfolio hedges (LC)	(75)	(50)	(8)	(6)	48	32	(27)	(20)
Home Purchase Savings Plans (FRB)	(4)	(2)	(3)	(2)	(15)	(10)	(11)	(7)
Home Purchase Savings Plans (CC)	(16)	(11)	(15)	(10)	(46)	(31)	(28)	(18)
Liability management upfront payment (CC)	(41)	(28)	-	-	(41)	(28)	-	-
Support to insured clients Covid-19 (LCL)	(2)	(1)	-	-	(2)	(1)	-	-
Support to insured clients Covid-19 (AG)	(143)	(97)	-	-	(143)	(97)	-	-
Total impact on revenues	**(288)**	**(195)**	**(30)**	**(20)**	**(225)**	**(154)**	**(78)**	**(53)**
Covid-19 donation (AG)	-	-	-	-	(38)	(38)	-	-
Covid-19 donation (IRB)	-	-	-	-	(8)	(4)	-	-
Covid-19 donation (CC)	-	-	-	-	(10)	(10)	-	-
S3 / Kas Bank integration costs (LC)	(5)	(2)	-	-	(9)	(4)	-	-
Total impact on operating expenses	**(5)**	**(2)**	**-**	**-**	**(65)**	**(57)**	**-**	**-**
Triggering of the Switch2 (AG)	65	44	-	-	65	44	-	-
Total impact on cost of risk	**65**	**44**	**-**	**-**	**65**	**44**	**-**	**-**
Total impact of specific items	(227)	(153)	(30)	(20)	(224)	(166)	(78)	(53)
Asset gathering	(77)	(53)	-	-	(116)	(91)	-	-
French Retail banking	(6)	(4)	(3)	(2)	(17)	(11)	(11)	(7)
International Retail banking	-	-		-	(8)	(4)		-
Specialised financial services	-	-	-	-	-	-	-	-
Large customers	(86)	(57)	(12)	(9)	13	9	(39)	(28)
Corporate centre	(57)	(39)	(15)	(10)	(97)	(69)	(28)	(18)

** Impact before tax and before minority interests*

付属資料 2 ー クレディ･アグリコル･グループ：部門別実績

クレディ・アグリコル・グループ ー 部門別寄与（2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期）

	Q2-20 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**3,163**	**851**	**664**	**1,360**	**607**	**1,706**	**(256)**	**8,096**
Operating expenses excl. SRF	(2,023)	(544)	(439)	(666)	(309)	(857)	(199)	(5,036)
SRF	(29)	(7)	(9)	1	(0)	(60)	(2)	(107)
Gross operating income	**1,112**	**301**	**216**	**696**	**298**	**789**	**(458)**	**2,953**
Cost of risk	(363)	(117)	(200)	64	(248)	(342)	(2)	(1,208)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	(1)	-	-	15	60	3	-	78
Net income on other assets	(4)	-	65	(0)	18	(0)	(0)	78
Change in value of goodwill	(3)	-	-	-	-	-	-	(3)
Income before tax	**741**	**183**	**81**	**775**	**128**	**450**	**(460)**	**1,898**
Tax	(226)	(53)	(17)	(202)	47	(47)	189	(308)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	(0)	-	-	-	-	(0)
Net income	**515**	**130**	**64**	**573**	**175**	**403**	**(272)**	**1,590**
Non controlling interests	(0)	(0)	(22)	(69)	(26)	(16)	27	(107)
Net income Group Share	**515**	**130**	**42**	**504**	**149**	**387**	**(245)**	**1,483**

	Q2-19 (stated)							
€m	RB	LCL	AG	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**3,257**	**886**	**1,480**	**740**	**687**	**1,466**	**(30)**	**8,485**
Operating expenses excl. SRF	(2,221)	(573)	(691)	(455)	(329)	(797)	(242)	(5,308)
SRF	2	(1)	(3)	(7)	(0)	8	(3)	(4)
Gross operating income	**1,038**	**312**	**786**	**278**	**358**	**678**	**(275)**	**3,174**
Cost of risk	(238)	(51)	(8)	(87)	(132)	(69)	(14)	(598)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	4	-	12	-	78	(1)	-	94
Net income on other assets	(7)	(0)	(0)	(1)	0	(0)	0	(8)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**797**	**262**	**790**	**190**	**305**	**608**	**(289)**	**2,662**
Tax	(247)	(84)	(222)	(53)	(73)	(148)	99	(728)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	8	-	-	-	-	8
Net income	**550**	**178**	**576**	**137**	**232**	**460**	**(190)**	**1,942**
Non controlling interests	0	(0)	(76)	(29)	(25)	1	(0)	(130)
Net income Group Share	**550**	**178**	**500**	**108**	**207**	**460**	**(190)**	**1,813**

クレディ・アグリコル・グループ ー 部門別寄与（2020 年度上半期と 2019 年度上半期）

	H1-20 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**6,323**	**1,729**	**1,360**	**2,694**	**1,254**	**3,295**	**(192)**	**16,462**
Operating expenses excl. SRF	(4,286)	(1,128)	(889)	(1,471)	(661)	(1,741)	(408)	(10,584)
SRF	(123)	(42)	(25)	(6)	(20)	(260)	(86)	(562)
Gross operating income	**1,914**	**558**	**446**	**1,217**	**573**	**1,293**	**(686)**	**5,316**
Cost of risk	(670)	(218)	(316)	46	(438)	(501)	(39)	(2,137)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	3	-	-	29	132	4	-	168
Net income on other assets	(4)	0	66	3	18	(0)	(0)	84
Change in value of goodwill	(3)	-	-	-	-	-	-	(3)
Income before tax	**1,240**	**340**	**195**	**1,294**	**286**	**796**	**(725)**	**3,428**
Tax	(464)	(109)	(54)	(328)	18	(103)	252	(789)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(1)	-	-	-	-	(1)
Net income	**776**	**231**	**140**	**967**	**304**	**693**	**(473)**	**2,638**
Non controlling interests	(1)	(0)	(40)	(131)	(46)	(26)	(4)	(248)
Net income Group Share	**775**	**231**	**101**	**835**	**258**	**667**	**(477)**	**2,391**

	H1-19 (stated)							
€m	RB	LCL	AG	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**6,669**	**1,747**	**2,940**	**1,442**	**1,368**	**2,804**	**(287)**	**16,682**
Operating expenses excl. SRF	(4,413)	(1,166)	(1,444)	(894)	(671)	(1,616)	(381)	(10,585)
SRF	(88)	(32)	(7)	(22)	(18)	(177)	(81)	(426)
Gross operating income	**2,167**	**550**	**1,489**	**526**	**678**	**1,011**	**(749)**	**5,671**
Cost of risk	(295)	(95)	(3)	(175)	(239)	(59)	(13)	(879)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	9	-	25	-	156	(1)	-	188
Net income on other assets	(7)	1	(0)	(1)	1	3	7	3
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**1,874**	**456**	**1,510**	**350**	**596**	**953**	**(755)**	**4,983**
Tax	(710)	(153)	(419)	(99)	(137)	(277)	219	(1,576)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	8	-	-	-	-	8
Net income	**1,164**	**302**	**1,099**	**251**	**459**	**676**	**(537)**	**3,415**
Non controlling interests	(0)	(0)	(149)	(53)	(58)	1	7	(253)
Net income Group Share	**1,164**	**302**	**950**	**198**	**401**	**677**	**(530)**	**3,163**

付属資料 3 ー クレディ･アグリコル S.A.：部門別実績

クレディ･アグリコル S.A. ー 部門別寄与（2020 年度第 2 四半期と 2019 年度第 2 四半期）

	Q2-20 (stated)						
€m	AG	BP (LCL)	BPI	SFS	GC	AHM	Total
Revenues	1,359	**851**	**640**	**607**	**1 706**	**(266)**	**4 897**
Operating expenses excl. SRF	(666)	(544)	(418)	(309)	(857)	(187)	(2 980)
SRF	1	(7)	(9)	(0)	(60)	(2)	(79)
Gross operating income	**694**	**300**	**212**	**298**	**789**	**(456)**	**1 838**
Cost of risk	64	(117)	(199)	(248)	(342)	(1)	(842)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	15	-	-	60	3	10	88
Net income on other assets	(0)	-	65	18	(0)	(0)	82
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**773**	**183**	**78**	**128**	**450**	**(447)**	**1 166**
Tax	(201)	(53)	(16)	47	(47)	185	(86)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(0)	-	-	-	(0)
Net income	**572**	**130**	**62**	**175**	**403**	**(262)**	**1 080**
Non controlling interests	(74)	(6)	(25)	(26)	(23)	29	(126)
Net income Group Share	**498**	**124**	**37**	**149**	**379**	**(233)**	**954**

	Q2-19 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**1,479**	**886**	**715**	**687**	**1,467**	**(85)**	**5,149**
Operating expenses excl. SRF	(691)	(573)	(436)	(329)	(797)	(207)	(3,033)
SRF	(3)	(1)	(7)	(0)	8	(3)	(6)
Gross operating income	**786**	**312**	**272**	**358**	**679**	**(296)**	**2,111**
Cost of risk	(8)	(51)	(84)	(132)	(69)	(15)	(358)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	12	-	-	78	(1)	19	108
Net income on other assets	(0)	(0)	(1)	0	(0)	0	(1)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**790**	**262**	**187**	**305**	**609**	**(292)**	**1,861**
Tax	(221)	(84)	(52)	(73)	(148)	94	(485)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	8	-	-	-	-	-	8
Net income	**577**	**178**	**135**	**232**	**460**	**(198)**	**1,384**
Non controlling interests	(80)	(8)	(36)	(25)	(9)	(3)	(161)
Net income Group Share	**496**	**170**	**98**	**207**	**452**	**(201)**	**1,222**

クレディ･アグリコル S.A. ー 部門別寄与（2020 年度上半期と 2019 年度上半期）

	H1-20 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**2,678**	**1,728**	**1,310**	**1,254**	**3,293**	**(167)**	**10,097**
Operating expenses excl. SRF	(1,471)	(1,128)	(848)	(661)	(1,741)	(385)	(6,235)
SRF	(6)	(42)	(25)	(20)	(260)	(86)	(439)
Gross operating income	**1,201**	**558**	**437**	**573**	**1,292**	**(638)**	**3,423**
Cost of risk	46	(218)	(314)	(438)	(501)	(37)	(1,463)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	29	-	-	132	4	13	178
Net income on other assets	3	0	66	18	(0)	(0)	87
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**1,279**	**340**	**189**	**286**	**795**	**(662)**	**2,226**
Tax	(323)	(109)	(53)	18	(103)	224	(347)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(1)	-	-	-	(1)
Net income	**955**	**231**	**135**	**304**	**692**	**(439)**	**1,879**
Non controlling interests	(139)	(10)	(47)	(46)	(39)	(5)	(287)
Net income Group Share	**816**	**220**	**88**	**258**	**653**	**(444)**	**1,592**

	H1-19 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**2,948**	**1,747**	**1,391**	**1,368**	**2,806**	**(256)**	**10,004**
Operating expenses excl. SRF	(1,444)	(1,166)	(856)	(671)	(1,616)	(384)	(6,136)
SRF	(7)	(32)	(22)	(18)	(177)	(81)	(337)
Gross operating income	**1,497**	**550**	**513**	**678**	**1,013**	**(721)**	**3,530**
Cost of risk	(3)	(95)	(172)	(239)	(59)	(13)	(582)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	25	-	-	156	(1)	13	193
Net income on other assets	(0)	1	(1)	1	3	19	22
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**1,518**	**456**	**340**	**596**	**955**	**(702)**	**3,163**
Tax	(420)	(153)	(96)	(137)	(278)	205	(880)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	8	-	-	-	-	-	8
Net income	**1,106**	**303**	**243**	**459**	**677**	**(497)**	**2,291**
Non controlling interests	(157)	(14)	(66)	(58)	(13)	1	(307)
Net income Group Share	**949**	**289**	**178**	**401**	**664**	**(496)**	**1,985**

付属資料 4 ー 1 株当たり利益、1 株当たり純資産の計算に使用される方法

クレディ・アグリコル S.A. ー 1 株当たりデータ、1 株当たり純資産及び ROTE

(€m)		Q2-20	Q2-19	H1-20	H1-19	Var Q2/Q2	Var H1/H1
Net income Group share - stated		954	1,222	1,592	1,985	(21.9%)	(19.8%)
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(72)	(99)	(229)	(240)	(27.2%)	(4.5%)
NIGS attributable to ordinary shares - stated	**[A]**	**882**	**1,123**	**1,363**	**1,745**	**(21.5%)**	**(21.9%)**
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	2,882.4	2,864.1	2,882.7	2,863.3	+0.6%	+0.7%
Net earnings per share - stated	[A]/[B]	0.31 €	0.39 €	0.47 €	0.61 €	(22.0%)	(22.4%)
Underlying net income Group share (NIGS)		1,107	1,242	1,758	2,038	(10.9%)	(13.7%)
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	**[C]**	**1,035**	**1,143**	**1,529**	**1,798**	**(9.5%)**	**(15.0%)**
Net earnings per share - underlying	[C]/[B]	0.36 €	0.40 €	0.53 €	0.63 €	(10.1%)	(15.5%)

(€m)		30/06/2020	30/06/2019
Shareholder's equity Group share		63,895	61,216
- AT1 issuances		(5,130)	(6,094)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		(2,291)	(3,056)
- Payout assumption on annual results*		-	-
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	**[D]**	**56,474**	**52,066**
- Goodwill & intangibles** - Group share		(18,502)	(18,335)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	**[E]**	**37,972**	**33,731**
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	2,882.8	2,864.0
NBV per share , after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	19.6 €	18.2 €
+ Dividend to pay (€)	[H]	0.0 €	0.0 €
NBV per share , before deduction of dividend to pay (€)		19.6 €	18.2 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	13.2 €	11.8 €
TNBV per sh., before deduct. of divid. to pay (€)	[G]+[H]	13.2 €	11.8 €

** dividend proposed to the Board meeting to be paid*

*** including goodwill in the equity-accounted entities*

(€m)		H1-20	H1-19
Net income Group share attributable to ordinary shares	[H]	2,725	3,490
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg***	[J]	36,022	32,572
Stated ROTE (%)	[H]/[J]	7.6%	10.7%
Underlying Net income attrib. to ord. shares (annualised)	[I]	3,058	3,596
Underlying ROTE (%)	[I]/[J]	8.5%	11.0%

**** including assumption of dividend for the current exercise*

代替的業績指標

NAVPS（1 株当たり純資産価額－1 株当たり純有形資産価額）

株式の価値を計算する方法の 1 つ。1 株当たり NAV は、期末の発行済み株式総数で除した AT1 債券から修正再表示した正味持分グループ帰属分です。

1 株当たり純有形資産とは、期末の発行済み株式総数で除した無形資産とのれんを修正再表示した有形の正味持分グループ帰属分です。

NBV（純資産額）

純資産額とは、AT1 債券、HTCS 秘密準備金、年間利益に基づく配当案について修正再表示した正味持分グループ帰属分です。

EPS（1 株当たり利益）

トレジャリー部門の株式を除き、平均発行済み株式総数で除した純利益グループ帰属分（AT1 債券の金利を除く）。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合（「希薄化」を参照）、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、費用を収益で除すことで算定され、費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング四半期の）リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。残高に対するリスク関連費用は、期首現在で四半期の年換算リスク関連費用を残高で除すことでも算定できます。

2019 年度第 1 四半期以降、検討対象となるローン残高は減損前の顧客向けローンだけです。

不良債権比率

不良債権比率は、顧客向けの不良債権全体と合計顧客ローン残高とを比較するものです。

不良債権引当率

不良債権引当率は、貸倒引当金総額と顧客向けの不良債権全体と比較するものです。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分－表示

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分は、AT1 債券の金利（税引前発行費用を含む）を差し引いた純利益グループ帰属分として計算されます。

基礎純利益グループ帰属分

基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因（すなわち、非経常的項目や例外的項目）について修正再表示した純利益グループ帰属分として計算されます。

ROE（株主資本利益率）

会社の純利益をその株式で除すことで算定される、株主資本利益率を測定する指標。

RoTE（有形株主資本利益率）

有形株主資本利益率の尺度（無形資産とのれんを除外するために修正再表示された銀行の純資産）。

Warning

The financial information on Crédit Agricole S.A. and Crédit Agricole Group for second quarter and first half 2020 comprises this presentation and the attached appendices and press release which are available on the website: https://www.credit-agricole.com/finance/finance/publications-financieres.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of EU delegated regulation 2019/980 of 14 March 2019 (chapter 1, article 1, d).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset impairment.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the six-month period ending 30 June 2020 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date, and with prudential regulations currently in force. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

Note: the scopes of consolidation of the Crédit Agricole S.A. and Crédit Agricole Groups have not changed materially since the Crédit Agricole S.A. 2019 Universal Registration Document and its 2019 A.01 update (including all regulatory information about the Crédit Agricole Group) were filed with the AMF (the French Financial Markets Authority).

The sum of values contained in the tables and analyses may differ slightly from the total reported due to rounding.

Since 30 September 2019, Kas Bank has been included in the scope of consolidation of Crédit Agricole Group as a subsidiary of CACEIS. SoYou has also been included in the scope of consolidation as a joint-venture between Crédit Agricole Consumer Finance and Bankia. Historical data have not been restated on a proforma basis.

Since 23 December 2019, Caceis and Santander Securities Services (S3) have merged their operations. As of said date, Crédit Agricole S.A. and Santander respectively hold 69.5% and 30.5% of the capital of CACEIS.

On 30 June 2020, once all necessary regulatory approvals were secured, Amundi acquired the entire share capital of Sabadell Asset Management.

Since 30 June 2020, Menafinance has been wholly owned by Crédit Agricole Consumer Finance and is fully consolidated by Crédit Agricole S.A..

決算スケジュール

2020 年 11 月 4 日	2020 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表
2021 年 2 月 11 日	2020 年度第 4 四半期及び通期の決算発表
2021 年 5 月 7 日	2021 年度第 1 四半期の決算発表
2021 年 5 月 12 日	パリにおいて年次株主総会
2021 年 8 月 5 日	2021 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2021 年 11 月 10 日	2021 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

Contacts

CREDIT AGRICOLE PRESS CONTACTS

Charlotte de Chavagnac	+ 33 1 57 72 11 17	charlotte.dechavagnac@credit-agricole-sa.fr
Olivier Tassain	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
Bertrand Schaefer	+ 33 1 49 53 43 76	bertrand.schaefer@ca-fnca.fr

CREDIT AGRICOLE S.A. INVESTOR RELATIONS CONTACTS

Institutional shareholders	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
Individual shareholders	+ 33 800 000 777 (freephone number – France only)	credit-agricole-sa@relations-actionnaires.com
Clotilde L'Angevin	+ 33 1 43 23 32 45	clotilde.langevin@credit-agricole-sa.fr
Equity investors:		
Toufik Belkhatir	+ 33 1 57 72 12 01	toufik.belkhatir@credit-agricole-sa.fr
Joséphine Brouard	+ 33 1 43 23 48 33	Joséphine.brouard@credit-agricole-sa.fr
Oriane Cante	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
Emilie Gasnier	+ 33 1 43 23 15 67	emilie.gasnier@credit-agricole-sa.fr
Ibrahima Konaté	+ 33 1 43 23 51 35	ibrahima.konate@credit-agricole-sa.fr
Annabelle Wiriath	+ 33 1 43 23 55 52	annabelle.wiriath@credit-agricole-sa.fr
Credit investors and rating agencies:		
Caroline Crépin	+ 33 1 43 23 83 65	caroline.crepin@credit-agricole-sa.fr
Marie-Laure Malo	+ 33 1 43 23 10 21	marielaure.malo@credit-agricole-sa.fr
Rhita Alami Hassani	+ 33 1 43 23 15 27	rhita.alamihassani@credit-agricole-sa.fr

See all our press releases at: www.credit-agricole.com - www.creditagricole.info

Crédit_Agricole Crédit Agricole Group créditagricole_sa